

2023

年 報

Annual Report



社会福祉法人 SAISEIKAI HIGASHIKANAGAWA REHABILITATION HOSPITAL

恩賜
財団

済生会東神奈川リハビリテーション病院



理 念

リハビリテーション医療を通じて地域の皆様の幸福に貢献します

基本方針

1. 質の高いリハビリテーション医療、安全な医療を提供します
2. 患者さんご家族に信頼される医療を提供します
3. 患者さんの権利を尊重し、患者さんが参加する医療を展開します
4. 未来のリハビリテーションに貢献できる先進的なリハビリテーションに取り組めます
5. 急性期病院との医療連携、慢性期・生活期の医療・介護施設、在宅スタッフとのスムーズな地域連携を構築し、地域から選ばれる病院をめざします
6. 職員の働きがいのある病院をめざします
7. 病院として責任ある経営をめざします

目 次

病院理念・基本方針

目 次

第Ⅰ章 病院概要	1
1. 沿 革	2
2. 組 織 図	3
第Ⅱ章 委員会	5
1. 衛生委員会	6
2. 個人情報保護委員会	6
3. 医療ガス安全管理委員会	7
4. 事故調査委員会	7
5. 災害対策委員会	8
6. 医療安全対策委員会	9
7. 院内感染対策委員会	11
8. 褥瘡対策委員会	12
9. 栄養委員会	15
10. 診療録委員会	15
11. DPCコーディング委員会	16
12. 教育委員会	17
13. 図書委員会	18
14. 購買委員会	19
15. 患者サービス委員会	19
16. 無料低額診療事業委員会	21
17. 薬事委員会	22
18. 情報システム委員会	23
19. 保育室運営委員会	23
20. 人事委員会	24
21. 賞罰委員会	24
22. 倫理委員会	25
23. 広報委員会	26
24. NST委員会	26
25. ボランティア委員会	27

第Ⅲ章 部 署	29
1. 診 療 部	30
2-1. 看 護 部	33
2-2. 2階病棟	35
2-3. 3階病棟	37
2-4. 4階病棟	39
2-5. 外 来	41
2-6. 会議・委員会 一覧表	43
3. リハビリテーションセラピスト部	45
4-1. 臨床工学科	49
4-2. 薬 剤 科	50
4-3. 放射線科	52
4-4. 臨床検査科	53
4-5. 栄 養 科	55
5-1. 医療福祉相談室	57
5-2. 地域連携部 退院支援室	59
5-3. 広 報 室	61
6-1. 総 務 課	62
6-2. 医 事 課	63
7. 地域リハビリテーション	64
8-1. 医療安全管理室	66
8-2. 感染管理対策室	69
9. ソーシャルインクルージョン	75
第Ⅳ章 医療統計	77
1. 患者統計	78
2. 入院患者(紹介元病院、居住地)	79
第Ⅴ章 研究実績	81
1. 研究実績	82

第 I 章

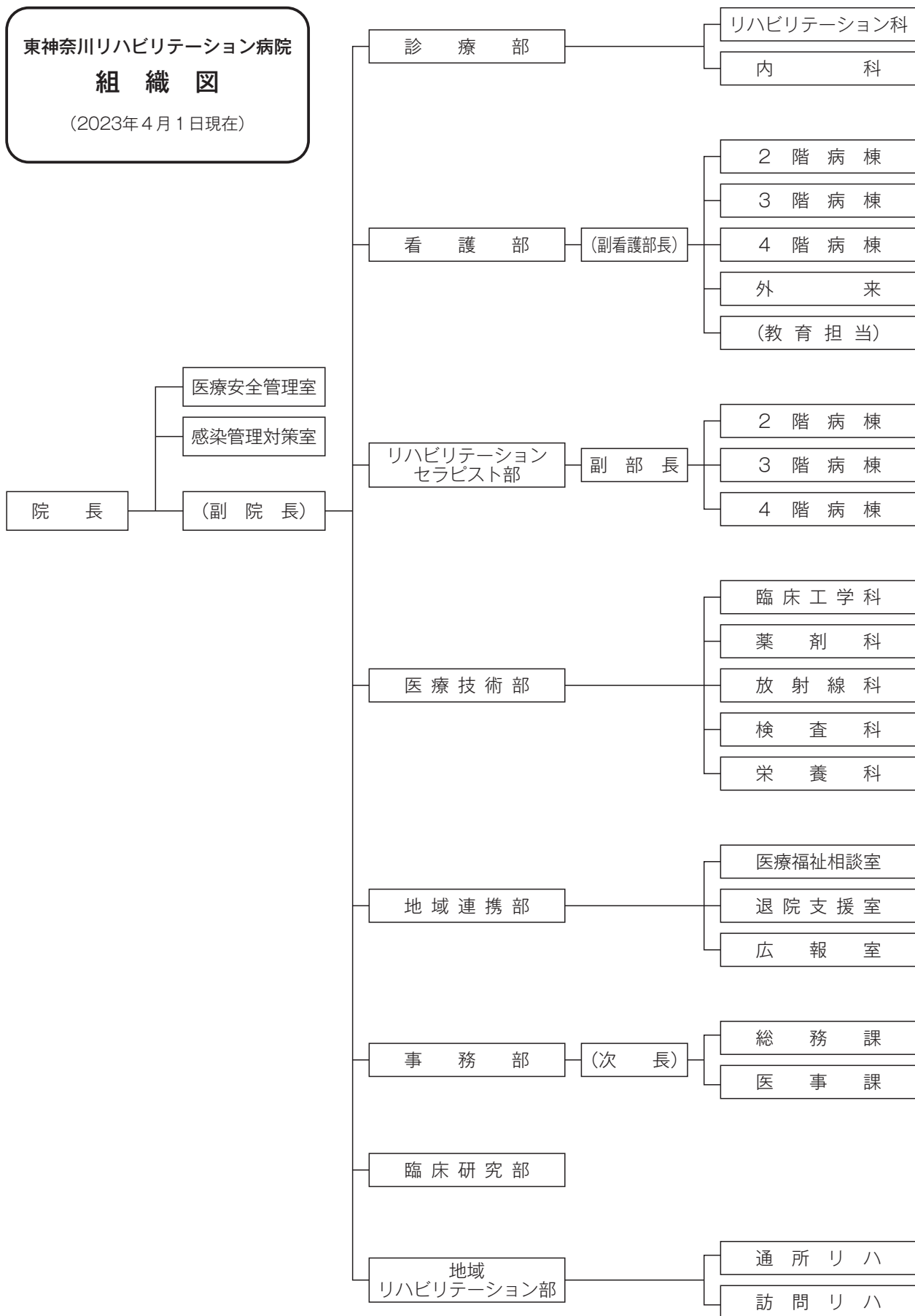
病院概要



沿革

- 2018年(平成30年) 2 月 1 日 ● 開院(74床)
- 2018年(平成30年) 4 月 1 日 ● 93床へ増床
- 2018年(平成30年) 6 月 1 日 ● 通所リハビリテーション開始(介護保険事業)
- 2018年(平成30年) 7 月 1 日 ● 99床へ増床
- 2019年(令和 1 年) 10月18日 ● 新規個別指導・適時調査
- 2020年(令和 2 年) 9 月 1 日 ● 訪問リハビリテーション開始(介護保険事業)
- 2021年(令和 3 年) 9 月 1 日 ● 106床へ増床
- 2023年(令和 5 年) 11月10日 ● 病院機能評価認定取得
 - 機 能 種 別：リハビリテーション病院
 - 高度専門機能：リハビリテーション(回復期)

組織図



第Ⅱ章

委員会



活動目的

労働災害の防止と快適な職場環境の整備を図り、職員の安全と健康の確保を目的とする。

2023年度の活動総括

- 毎月1回開催し、下記事項について審議した。
- ①職員の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること。
 - ②職員の健康保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること。
 - ③労働災害の原因及び再発防止対策で衛生に係るものに関すること。
 - ④院内暴力を発生防止するための基本となるべき対策に関すること。

2023年度の実績

- ・月1回委員会開催
- ・院内巡視(産業医 月1回、衛生管理者 随時・少なくとも週1回)
- ・職員定期健康診断および特別健康診断の実施(実施率100%)
- ・職員定期健康診断二次検診受診等追跡調査
- ・各予防接種の実施(インフルエンザ、水痘、HBワクチン、新型コロナワクチン)
- ・院内ハラスメントの報告および対応検討
- ・長時間労働者の健康維持確保のため時間外労働時間の集計および対応を検討(産業医との面談含む)
- ・ストレスチェック結果に基づき傾向分析および対応の検討

活動目的

個人情報の適正な取り扱いを院内に周知徹底する

2023年度の活動総括

- 年1回以上の開催、適宜必要により臨時開催
- ・個人情報取扱いについての院内ルール・運用の見直し、周知
 - ・広報委員会との連携、SNS運用規程の整備
 - ・e-ラーニングによる職員向けの個人情報保護に関するセミナーの開催

2023年度の実績

- ・個人情報取り扱いについての院内管理体制・ルールや運用の見直し。
- ・広報委員会と連携してSNS規程の整備。
- ・個人情報に関するインシデント報告の確認。
- ・職員向けセミナーの開催
開催日程：2024年2月26日～3月15日まで
テーマ：医療従事者が知っておくべき個人情報の適切な取り扱い方
e-ラーニングを利用した研修を実施
閲覧者：155名
履修率：72.8%

3 医療ガス安全管理委員会

活動目的

診療の用に供する医療ガス及び医療ガス設備の安全管理を図り、患者様の安全を確保することを目的とする。

2023年度の活動総括

医療ガスの正規取り扱い及び医療ガス設備の安全管理を実施。

2023年度の実績

- ・医療ガス配管設備定期保守点検
3ヶ月点検を実施。
- ・医療ガス安全管理講習会
関係職員を対象にボンベの安全な取り扱いと医療ガス設備の保安及び知識習得の講習会実施。

2024年度の目標

引き続き医療ガス及び医療ガス設備の安全管理と患者様の安全確保に向け、講習会の充実を図る。

4 事故調査委員会

活動目的

医療事故発生後の速やかな事故原因の究明と今後の対応策を検討する。

2023年度の活動総括

事故調査委員会開催案件は発生しなかった。

2023年度の実績

* 特段無し

委員会構成：5名

活動目的

火災予防及び防災対策の強化を図るとともに、職員の防災意識の向上と適切な災害対応を目的とする。

2023年度の活動総括

災害対策マニュアルの作成と適正化を図り、防火防災訓練(通報・連絡・初期消火・避難誘導の部分訓練)を実施し、防災意識の向上が図れた。

2023年度の実績

- ・防火防災訓練の実施
 - ・新規採用職員採用時研修
 - ・消火器訓練、消防設備説明会
(通報訓練・避難訓練・消火訓練)

2024年度の目標

- ・地震を想定した防災訓練実施
- ・BCPの改定

活動目的

医療ミス、医療事故のインシデントレポートの情報共有・調査分析により、事故の傾向を明確にして、医療事故防止・再発防止を目的に毎月開催している。

2023年度の活動総括

院内で発生・報告のあったインシデント・アクシデント情報の共有を行い、当該部署だけではなく院内全体で対策について検討を行った。

2023年度の実績

1. 委員会開催数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
出席率(%)	75	92	100	83	92	100	100	83	75	83	92	83

2. 審議内容

	審 議 事 項	対 策
2023年 4月	医療放射線安全管理委員会の今後の開催方法について	医療安全対策委員会のもと年1回以上審議を行う。放射線技師は非常勤である為、今後はオブザーバーとして参加する。
6月	ストレッチャーと車椅子点検の方法について	今までストレッチャー点検が未実施だったため、病棟用と入浴用で毎月1回開始。車椅子点検は病棟看護師からセラピストへ移譲した。
6月	胃管挿入患者が胃管が抜けかかっていたことに気付かず、経管栄養を投与開始したインシデントについて	当院の経管栄養投与前のチェック項目が不足していたため、マニュアルを改定。チェックした項目の記録もなかったため、記録に残すようテンプレートを導入。
8月	リストバンドの管理方法について見直し	リストバンドは毎月1回確認し、必要時交換するよう運用開始した。
9月	迷惑行為を行う患者への対応	迷惑行為を行う患者への対応マニュアルがないため作成。強制退院の同意書も見直し改定した。
10月	屋外歩行訓練時の連絡方法について	屋外歩行訓練出発時、毎回電話連絡していたが、リハビリスケジュールに前もって行くことを記載し、情報共有することへ変更。看護師の記録はなしとした。

2024年 1 月	ポケットマニュアルの改訂について	修正点や追加項目について検討し、改訂した。
2 月	病棟緊急時シミュレーション実施について	パラパック装着までを想定し、職員へ危機管理の意識付けをした。
3 月	膀胱造影検査時のインシデントについて	膀胱造影検査時のチェックリストを作成した。

活動目的

院内感染の発生を低減するための方針を決定し、感染予防に向けた事項を調査審議するとともに、感染対策に有効な意見を推進し、院内感染の予防に向けた提唱者の役割を果たす目的で毎月1回開催している。また、緊急時には臨時委員会も開催している。

2023年度の活動総括

耐性菌検出状況、抗菌薬使用状況、感染症発生状況の報告、新型コロナウイルス感染症やワクチン接種、院内感染予防マニュアルの改訂等に関連した協議や決済、評価を中心に行った。

2023年度の実績

開催日	種 類	内 容	参加率
4月13日(木)	定 期		100%
4月19日(水)	臨 時	面会者登録制について、採用活動に関連した院内見学、インターンシップについて	83%
5月11日(木)	定 期		100%
6月6日(木)	臨 時	全病棟での新型コロナウイルス感染症発生について	100%
6月9日(木)	臨 時	新型コロナウイルス感染症経過報告	75%
7月13日(木)	定 期		92%
8月10日(木)	定 期		92%
9月15日(木)	定 期		75%
10月12日(木)	定 期		92%
11月9日(木)	定 期		100%
12月13日(木)	定 期		83%
1月11日(木)	定 期		92%
2月8日(木)	定 期		83%
3月14日(木)	定 期		92%

活動目的

病院全体としての組織的な対策によって、患者の褥瘡の予防及び発生した褥瘡に対する適切な処置・治療の実施を指導・管理することを目的とする(また、委員会は褥瘡対策チームを兼務する)。

2023年度の活動総括

- 定例開催日

毎月第3火曜日 10:30(10:00より褥瘡チームの回診実施後に行う)

他院からの転院患者がほとんどで、持ち込みなど褥瘡患者に対して他職種からの意見を持ち寄り、栄養管理やポジショニング方法、リハビリ状況など現状の検討と対策方法を審議し、現場へ指導を行っている

2023年度の実績

- 院内褥瘡予防対策勉強会の開催

職員全員を対象に2024年1月(株)光洋 コンシェルジュによる「ポジショニング」の講義を実施した。参加できなかったスタッフに、講義内容を収録してe-ラーニングで配信した。

- 2023年度より重症度が高い患者が増加し、難治性や当院での褥瘡発生率が高くなってきている傾向があり、褥瘡対策委員および褥瘡リンクナースが適宜指導を行った(褥瘡患者の発生状況については表1～を参照)。

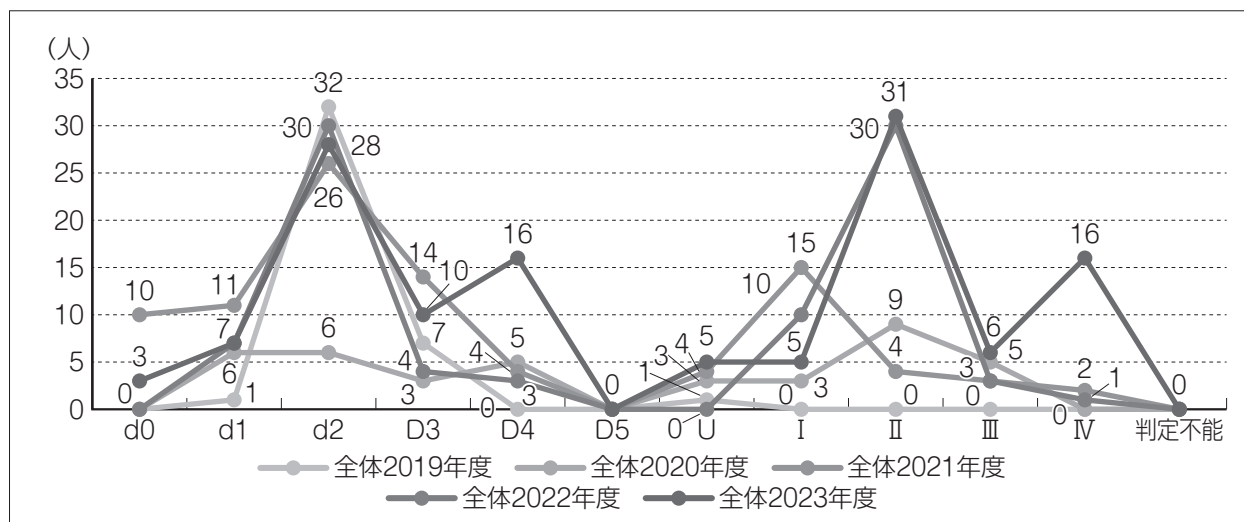
褥瘡患者数とDESING-R(2020)

表1より過去5年間で年々と褥瘡患者が増加していることがわかる。表3から70%～80%転院先で発生した持ち込み褥瘡を占めていることがわかる。新規発生患者は表2・表5から発生率も10%に満たない。

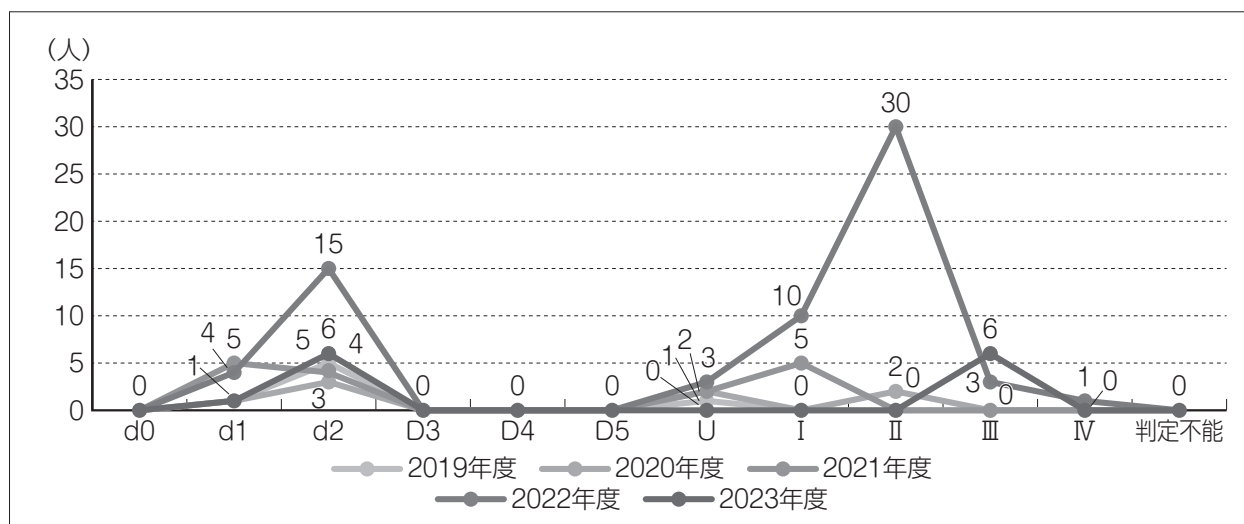
リハビリは入院期間が長期になることもあり(患者の状態が悪化して転院する場合以外)、データには示していないがほとんど完治している。

リハビリテーションと併用に栄養管理、ポジショニング等に十分配慮しながら行っている。

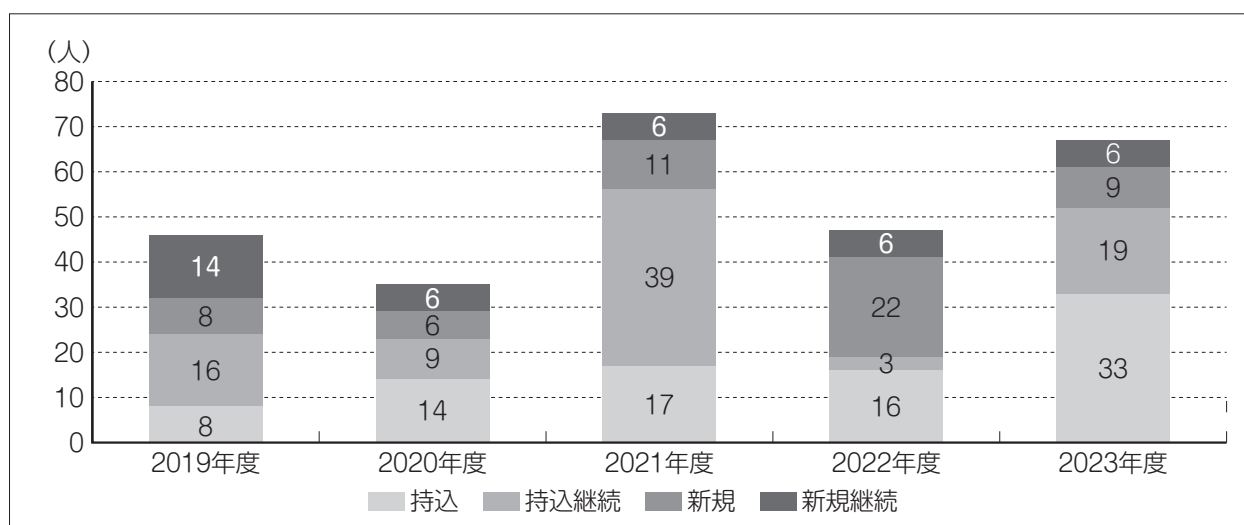
【表1 年度別褥瘡患者数とDESIGN-R(2020)分類】



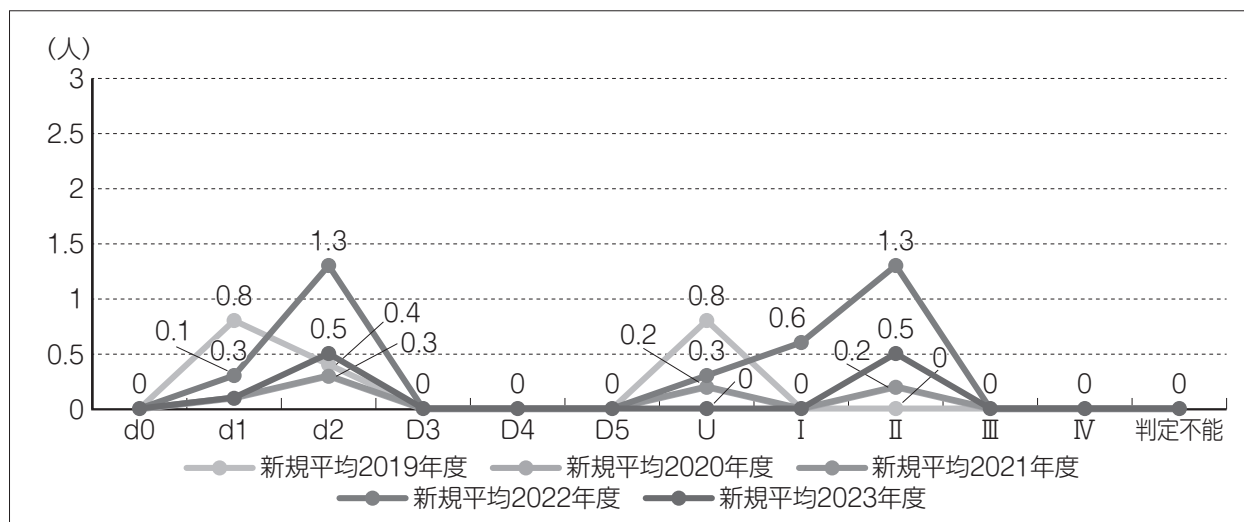
【表2 年度別新規褥瘡発生患者数とDESIGN-R(2020)分類】



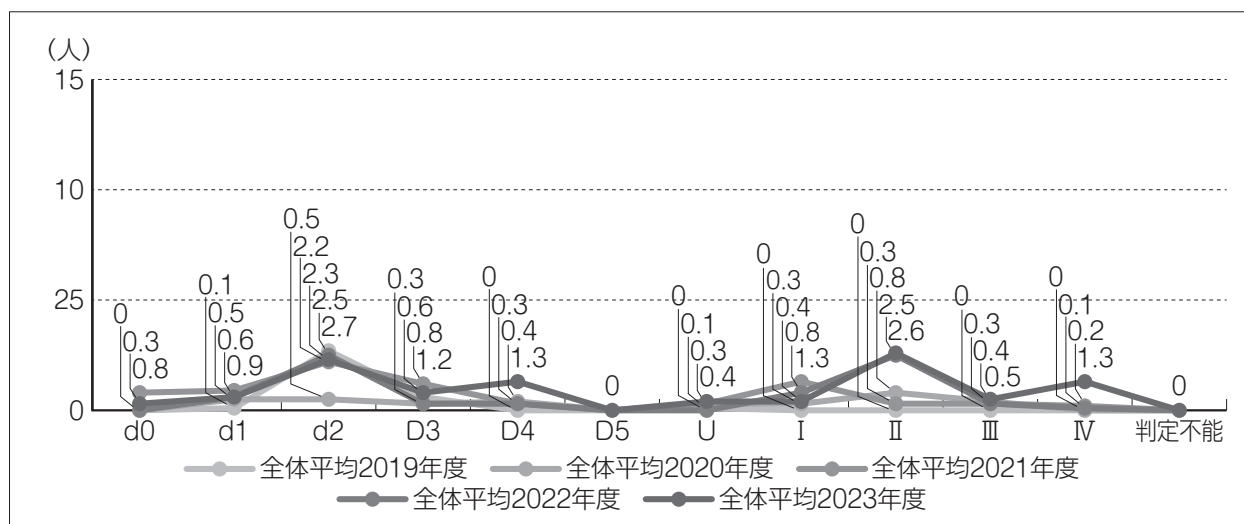
【表3 褥瘡患者数(新規・持込・継続)】



【表4 新規褥瘡発生患者平均】



【表5 全体褥瘡患者平均】



9

栄養委員会

活動目的

病院長の諮問機関として、給食の管理、運営の質的向上を図ることを目的とする

2023年度の活動総括

- 定例開催日
毎月第4木曜日 16：15開催

患者給食献立表の承認、行事食提供の確認、検食状況の確認・意見抽出、患者給食の食数・栄養指導・材料費・委託費等の栄養科データの報告等を毎月行っている。また、栄養管理マニュアルの改訂、嗜好調査の実施、経管栄養の見直し等を行った。

2023年度の実績

- 栄養管理マニュアル(食物アレルギー)改訂
- ノロウイルス患者対応マニュアルの改訂(デイスボ食器対応と下膳方法の変更)
- お米の品種変更(新潟県産こしいぶき→秋田県産あきたこまち)
- 厨房の衛生管理
- インシデント振り返り
- バナナの一口大提供の変更
- ソフト食のマカロニ提供について検討
- 食材費高騰への対応検討
- 9月、3月に入院患者を対象とした嗜好調査を実施
- 麺の提供について検討
- 自助具太柄グリップの種類変更

10

診療録委員会

活動目的

病院長の諮問により、診療録の管理・運営に関する基本指針並びに関係事項を審議することを目的とする。

2023年度の活動総括

- 定例開催日
毎月第1火曜日 16：00開催

病院内の電子カルテを含めた診療録の管理・運用の確認、それに伴う院内でのカルテ監査の実施を行い、規程や方針に沿った管理が出来ているか確認している。

また、院内の説明書や同意書に関する規程の策定、カルテ用語集の作成、退院サマリーの作成状況確認等を行い、診療録の管理に努めている。

2023年度の実績

診療録の開示に関する管理・運用の確認、診療録で使用する略語をまとめたカルテ用語集の作成・修正、院内の説明書や同意書の管理、退院サマリーの作成状況確認(2024. 5. 1時点で2023年度の退院サマリー作成率は100%達成済み、14日以内の作成率は88.6%)

また、当院の診療記録が適正に記載されるように、年間2回の院内カルテ監査を実施して、診療録の適正化を図っている。

退院患者のサマリー管理について、医師だけではなく看護師・セラピストのサマリー作成状況を把握出来るように、管理簿を作成し、委員会で報告することとした。併せて、退院患者の病名精査の為、ICD-10コードを用いた病名の確認を行うこととした。

今年度は病院医療機能評価を受審した為、診療録管理については入力や記録の漏れがないように、特に念入りに確認を行った。

11 DPCコーディング委員会

活動目的

病院において医療を提供する上で、質の高いデータが継続的かつ適切に提供できる体制を構築し、当院の発展に寄与することを目的とする

2023年度の活動総括

回復期リハビリテーション病棟入院料1を算定する為に必要なデータ提出加算の施設基準要項となっており、院内で行われている診療行為を適切に提出できる体制を構築している。提出の遅延がないように、適宜データの整理、入力の督促等を併用して行っている。

また、提出しているデータの入力について、適切なデータを作成出来るように管理・運用を行っている。

2023年度の実績

データ提出加算算定の承認を受けて以降、3ヶ月毎の本データを作成・提出している。また、データチェックについても滞りなく行い、提出データの遅延も無く運用している。

提出するデータはそれぞれ各職種の担当者が入力しており、データを滞りなく提出出来るように、各担当者への催促と入力漏れや間違いが無いよう確認している。また、ICD-10コードに則った正式な病名を登録出来るように、医師に対しても積極的にアプローチを行っている。

データ入力をする各担当部署へは退院毎に適宜連絡をしており、督促や入力漏れや間違いの訂正等を行うことで、不備も減少してデータの完成が早くなっている。

一部のがんの内服による治療を行っている患者に関して、化学療法の確認項目の入力漏れが発生していた為、薬剤師とも連携するようにして漏れなく入力出来るようにしている。

活動目的

職員が院内研修を把握して計画的に研修に参加することで、個人の既存知識を強化し当院の医療の質向上を目的とする。

2023年度の活動総括

昨年同様e-ラーニングシステムを用いた研修を主とし、既存の研修だけではなく、講師となる職員が伝えたい内容を撮影し、院内独自の研修動画として随時閲覧できるように研修内容を充実させた。

QC発表会は前年度同様に実施し、昨年の発表を踏まえた新たな検証を行った発表など、年を追うごとに内容が深まった発表となり、今年も院内改善活動に役立った。また、他職種を交えた発表も増え、他職種連携強化の有用な一因となった。

2023年度の実績

- ・入職式・オリエンテーション(4月3～5日)
- ・臨床倫理研修会(①5月1日～31日／②11月1日～30日 e-ラーニング)
- ・メンタルヘルスケア研修(7月24日)
- ・医療安全・感染防止対策研修(①6月27日～7月28日／②11月17. 20. 21日 e-ラーニング)
- ・看護必要度研修会(7月18日～8月18日 e-ラーニング)
- ・労働安全衛生研修会(6月5日～23日 e-ラーニング)
- ・ハラスメント研修(9月1日～30日 e-ラーニング)
- ・FIM研修(①9月25日／②10月31日)
- ・コンプライアンス研修(12月1日～31日 e-

ラーニング)

- ・褥瘡勉強会(1月29日)
- ・QC発表会(2月6、7日)
- ・個人情報保護研修会(2月26日～3月15日 e-ラーニング)
- ・認知症ケア研修(2月29日)
- ・医療ガス勉強会(3月14日～31日 e-ラーニング)
- ・無料低額診療事業研修(3月26日～4月12日 e-ラーニング)

活動目的

図書室の整備および有効活用について審議検討を行ない、医学および医療に関連する最新情報を提供し、医療の質の向上を図る。

2023年度の活動総括

- ・ 定例開催日：年に1回、または2回
院内の新規購入図書・雑誌の申請・承認・周知
図書の貸出管理
図書室の整備

2023年度の実績

- 9月 部署ごとに院内にアンケートを取る
10月 アンケート集計結果を踏まえ委員会を開催
審議内容として以下の3つを検討した。
- ・ 翌年1年間の和・洋雑誌の新規購入・継続・中止について
 - ・ 書籍の新規購入について
 - ・ 電子書籍(メディカルオンライン)契約更新の有無について

【定期購読雑誌】

総務課委員が随時図書室に配架。また、書籍については納品後、院内周知として電子カルテのトップページへの記載および図書室内にお知らせを貼付し、数週間図書室の一角にコーナーを設けた。

- ・ 2023年 購入図書数
書籍 11冊 / 雑誌 19種類
- ・ 2024年 蔵書数(3月末)
計2,866冊(書籍 327冊 / 雑誌 27種類)

14

購買委員会

活動目的

病院で使用する医療機器、診療材料等資機材の購買に関し、必要性・経済性等を審議し、経費の削減等を目的とする。

2023年度の活動総括

医療機器等購入に関し、必要性・経済性等に鑑み審議し経費削減が図れた。

2023年度の実績

- ・購買委員会開催日

2024年度の目標

引き続き医療機器、診療材料等資機材の購買に関し、必要性及び経済性等を十分に審議し、経費削減を図る。

15

患者サービス委員会

活動目的

患者サービスの向上に関する事項について審議を行い、具体的な策を立案して、改善に向けた活動を行うことを目的とする。

2023年度の活動総括

看護部長を委員長とし診療部長、事務部長、医療安全管理者、MSW、医事課長、医事課職員、総務課長、総務課職員をメンバーとし、「退院患者アンケート」や「患者相談窓口」、ご意見箱に投函された「ご意見・ご感想」を確認し、改善案を審議した。

職員の接遇や、病院のハード面についてなどさまざまなご意見をいただき、できる限りのご要望に対応してきた。また、「ご意見・ご感想」で問題が発生した場合は、各部署にフィードバックして改善を求め、各部署も真摯に受け止め対応してくれた。

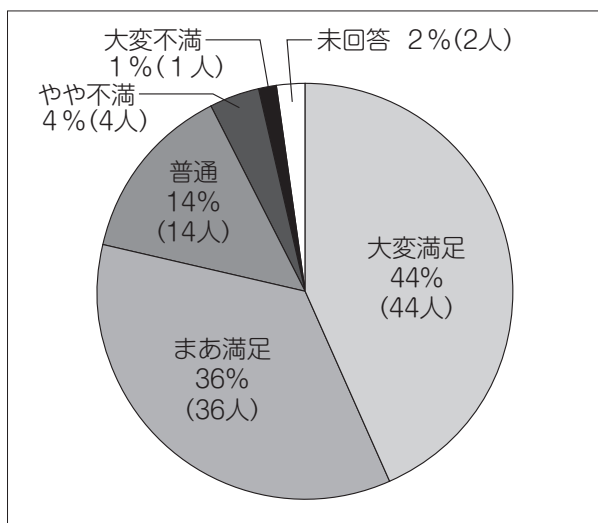
「ご意見・ご感想」、「患者アンケート」で職員名が記載された感謝の内容については、該当職員に感謝状の授与を行い病院として感謝を示した。「ご意見・ご感想」の回答は毎月院内掲示を行っている。また、「退院アンケート」・「外来患者満足度調査」の集計結果についても院内掲示を行っている。

2023年度の実績

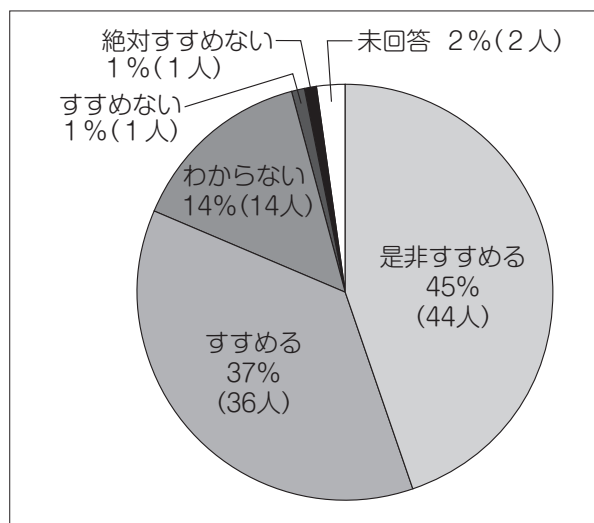
- ・委員会開催：11回
- 「ご意見・ご感想」の対応および検討(30件)
- 「退院アンケート」の対応および検討(101件)
- 「外来患者満足度調査」を実施(回答数58件)
- 「患者相談窓口」の対応および検討(33件)
- ※アンケートおよび満足度調査の詳細は次項参照

《2023年度 退院アンケート》

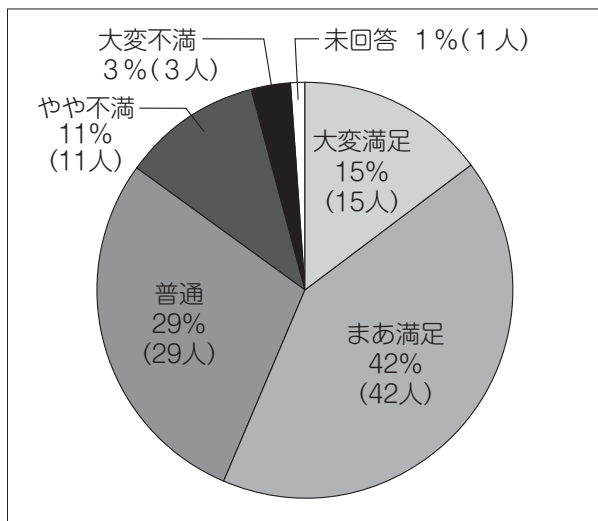
【入院満足度(回答者数=101人)】



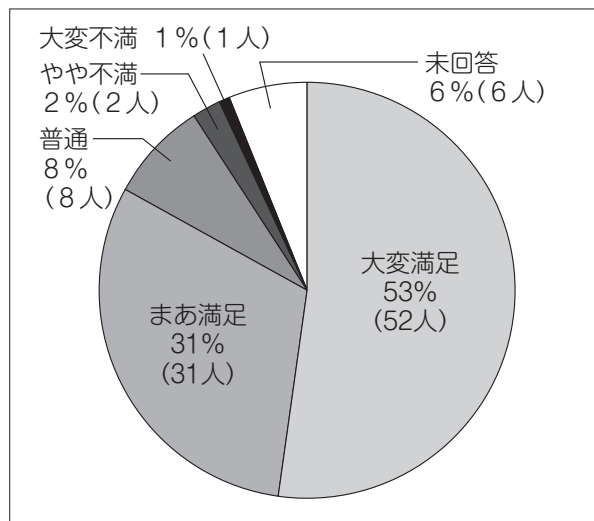
【知人・家族にすすめられる病院か】



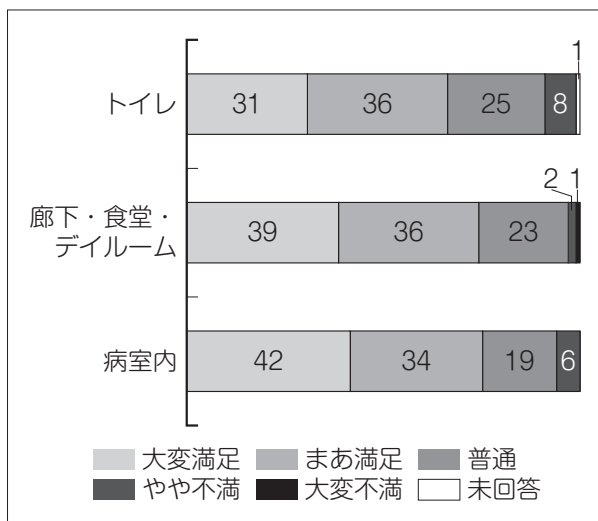
【食事について】



【リハビリテーション満足度】



【清掃について】



16 無料低額診療事業委員会

活動目的

恩賜財団済生会創立の本旨と社会福祉の精神に則り、経済的理由により適切な医療を受けることが困難な方々に対して、診療費等の支払いを減免するために必要な事項を定め、もって医療を通して福祉の向上を図ることを目的とする。

2023年度の活動総括

構成メンバーは前年度と変更なし。無低割合については11.3%と目標達成した。今年度は4年ぶりに寿地区無料健康診断事業が再開され、63名の方に健診を行うことが出来た。また地域への教育活動については地域のケアマネジャーを対象に「終末期の意思決定」「脳卒中患者の社会復帰」をテーマに研修を開催した。その他、当院の防災品入れ替えに伴い「フードバンクかながわ」へ食料品の寄贈を行った。

2023年度の実績

・委員会活動実績

開催回数：12回開催(毎月第二金曜日)

・委員会活動実績

1. 無料低額診療事業実績報告

①生保減免割合：2023年度 11.3%

②脳卒中教室：実施回数 47回

延べ参加者 373名

2. 寿地区健診事業

2024年2月9日(金)

受診者 63名

3. なでしこ研修

「ケアマネジャーさんと語ろう」

2024年3月13日(水)

参加者 23名

4. 無料低額診療事業研修会

全職員に対しe-ラーニングにて開催

2024年3月26日(火)～4月12日(金)

5. フードバンクかながわへの食料品寄贈

2023年9月1日(金)

活動目的

病院長の諮問機関として、当院における薬品の採用、使用及び管理について、適正かつ効率的な運用の推進を図る為、審議を行うことを目的とする。

2023年度の活動総括

• 定例開催日

毎月第2金曜日 16：00開催

院内の新規採用医薬品の申請・承認、院内採用医薬品の報告、薬剤副作用症状の報告、臨時採用医薬品の報告、採用医薬品の切り替え申請・承認、病棟常備薬の整備、救急カート内常備薬の整備、採用医薬品の整備等を行っている。

2023年度の実績

臨時採用医薬品の在庫整理を行い、なるべく余剰分の薬剤を在庫として残さないように、退院時処方等で整理した。また、採用医薬品の見直し・管理・整備も行っており、長期間使用されていない薬剤については適宜整理を行った。

採用医薬品については、より安価で、より使いやすい、より処方間違いをしないような薬剤に適宜切り替えを行った。また院外採用の薬剤の登録も適宜行い、電子処方箋に対応出来るように体制を整備している。

医薬品の廃棄については、適宜確認を行い、廃棄になる前に使用できるよう、管理・整備を行っている。徹底した管理を行うことで、廃棄件数も金額も前年度よりも更に減少している。

PBPMへの当院の取り組みについて、診療部とも相談しながら医師の負担軽減を目的として、

適宜取り組みを開始している。

• 新規採用薬剤件数

院内採用：4件

院外採用：5件

臨時採用：53件

• 廃棄薬剤

廃棄薬剤件数：23件

18 情報システム委員会

活動目的

院内の情報システムを適正な運用と管理を行う。

2023年度の活動総括

大きな障害なく運用した。

2023年度の実績

月に1回(年12回)委員会の開催。

2024年度の目標

適正な運用および管理を行い、現場のニーズに対応し質の高い医療を提供できるようシステム面から支援する。

19 保育室運営委員会

活動目的

済生会東神奈川リハビリテーション病院および済生会神奈川県病院に所属する全職員の乳幼児を対象とし、健やかに育成することを目的とする。

2023年度の活動総括

東神奈川リハビリテーション病院・神奈川県病院・日本デイケアセンター(かなっこ保育室運営会社)の職員で構成し、当院看護部長を委員長とし、隔月第4木曜日に委員会を開催。

本委員会は、保育室利用状況の確認、定期監査や保育室での季節イベント及び保育室から提案を受けた事項について毎回審議している。

今年度の月極では平均6名のお子様が在籍し、多い月では預かり上限である12名のお子様をお預かりした。また、3年ぶりの夜間保育があり、多い月では4回お預かりがあった。

2023年度の実績

- 保育室利用者状況(延利用者数)
 - ・ 東神奈川リハビリテーション病院：計91名
 - ・ 神奈川県病院：計26名
- 季節イベント
 - ・ 6月 個人面談(月極のみ)
 - ・ 7月 七夕飾り、プール遊び
 - ・ 10月 ハロウィンパーティー
 - ・ 12月 クリスマス会
 - ・ 2月 昼食会
 - ・ 3月 お別れ会
- 立入監査
 - ・ 10月10日(保育室指導監査)

活動目的

病院人事に関する重要な事項を審議し、もって人事の円滑な運用を図る。

2023年度の活動総括

2023年度は臨時の委員会ながら16回の委員会を開催した。病院組織、職員採用に係る計画、昇格・雇用変更等の人事関係について審議を行った。

また、出張旅費規程等の規定の見直しや新型コロナウイルス感染症等による職員の休務の取扱いについての審議等を行った。

2023年度の実績

* 人事事案について記載省略

委員会構成：4名

活動目的

当委員会は、病院長の監督に属し、その諮問に応じ、職員の表彰及び懲戒について調査審議するものとする。

2023年度の活動総括

事故調査委員会開催案件は発生しなかった。

2023年度の実績

* 特段無し

委員会構成：4名

活動目的

医療倫理の保持の的確を期する。

2023年度活動総括

2023年度は2回の開催に留まった。過去最も多く開催した昨年度より3回程度少ない開催数であった。

- ・委員会開催 2回
- ・臨床研究に伴う書面審査承認件数 14件

2023年度活動実績

○委員会

- ・第1回倫理委員会 2023年6月28日(水)
 - ・倫理審査申請書の内容の審議
 - ・委員会規程の見直し
 - ・2023年度職員倫理研修の内容決定
- ・第2回倫理委員会 2022年6月9日(木)
 - ・倫理審査申請書内容の審議

活動実績

○臨床研究

- ・申請番号 23-01
脳卒中者に起こる退院後の転倒の要因検証
ー歩行の適応的運動学習能力の関与ー(変更)
- ・申請番号 23-02
脳卒中者の装具作製に寄与する因子の探索
ー継続的評価結果からみる後ろ向きコホート研究ー
- ・申請番号 23-03
ロボットマニピュラムKINARMを用いた感覚運動機能の評価並びに中枢神経障害患者へのリハビリテーション手法の開発(変更)

- ・申請番号 23-04
反張膝矯正用の膝装具着用による歩行への影響を明らかにする研究
- ・申請番号 23-05
Kessler Foundation Neglect Assessment Process(KF-NAP)の尺度特性の検証
- ・申請番号 23-06
コロナ禍における脳血管障害患者家族の介護負担と求められる在宅支援の在り方の検討
- ・申請番号 23-07
作業療法の効果を検証するためのデータベース研究：身体障害領域
- ・申請番号 23-08
日本における脳卒中片麻痺患者の重症度版 Motor Activity Logの信頼性と妥当性の検討
- ・申請番号 23-09
COVID-19パンデミックが作業療法士の仕事や生活に与える影響に関する質的研究
- ・申請番号 23-10
脳卒中患者に対する作業機能障害のスクリーニング評価の開発
- ・申請番号 23-11
ロボットマニピュラムKINARMを用いた感覚運動機能の評価ならびに中枢神経障害患者へのリハビリテーション手法の開発(変更)
- ・申請番号 23-12
脳卒中患者の短下肢装具使用が歩行速度、歩行自立度に及ぼす経時的影響 ーデータベース評価からみた後ろ向きコホート研究ー
- ・申請番号 23-13
リハビリテーション医療分野におけるナッジの解明 ー使用状況と健康関連QOLについてー
- ・申請番号 23-14
回復期脳卒中患者と作業療法士の作業遂行に対する認識差が退院後の作業遂行度に及ぼす影響

活動目的

広報活動を通じて、当院の医療サービスに関する最新情報を患者、地域住民及び医療関係者に広く知ってもらうこと。

2023年度の活動総括

- 定例開催日
毎月第2水曜日 16：00開催

委員会メンバーが主となり、病院内外での活動記録を各広報誌用の記事として作成し、委員会にて審議したうえで機関誌「済生」に投稿や当院の院外機関誌「Upgrade」の作成を行った。

また、各パンフレットやホームページについても同様に都度委員会にて審議した上で、改修を行った。

2023年度の実績

- 委員会開催実績：11回開催
- 「病院年報2022」制作
- 病院ホームページの更新
- 病院機関紙の発刊(年3回)
- グッズ選定
- 病院案内パンフレット増刷(300部)
- 看護部案内パンフレット増刷(200部)

活動目的

低栄養患者の把握と対応の検討、誤嚥性肺炎発症動向の調査と原因分析、誤嚥性肺炎や栄養状態およびリハビリテーション栄養に関する知識向上の機会を設定、「誤嚥性肺炎ゼロ」・「低栄養ゼロ」を目指すと同時に、全ての患者に訓練効果を高める為のリハビリテーション栄養管理を実践する。

2023年度の活動総括

- 定例開催日
毎月第2金曜日 17：15開催

NSTの活動内容の整理、電子カルテのチーム医療としてNST患者の管理、病棟回診の実施と情報共有、摂食機能療法算定実施の整備、誤嚥性肺炎の分析等を行っている。

2023年度の実績

昨年度から引き続き、摂食嚥下・誤嚥防止等を中心に、院内の体制整備を行い、病棟回診により入院中の患者に対して素早い対応が出来る体制整備を行っている。

- 摂食機能療法：入院延5,760件・外来延22件
- 新規院内発生誤嚥性肺炎：入院延6名
- NST定期病棟回診
毎月第2金曜日、第4水曜日 10：00開始
介入患者数 9名

NSTが摂食嚥下認定看護師と共同で以下の通り活動。

- 摂食機能療法のマニュアル改定
・電子カルテトップページにも追加、いつで

も閲覧可能とした。

- 退院患者へのFOIS評価の開始
 - ・評価のテンプレートを整備、2024年3月1日退院患者より実施。
- 摂食嚥下機能回復体制加算の取得に向けた体制整備
 - ・マニュアルを整備、テンプレートやカンファレンス記録等の見直し。
- 食器、食具類の検討
 - ・Uコップの導入、対象患者はSTやOTと相談、各病棟1個ずつ購入。

25

ボランティア委員会

活動目的

ボランティア活動を希望する個人又は団体を広く受け入れ、地域社会とともに患者に、よりきめ細かいサービス提供及びケアの質の向上を図り、病院を側面から支援し、地域に密着した病院の運営を図る事ことを目的とする。

2023年度の活動総括

2023年度は4名のボランティア受入を行い、ボランティア活動の開始年度となった。活動日や活動時間は様々だが、毎週ボランティア活動に参加する方もいたため、ボランティアの総活動日数は76日、総活動時間は183時間となった。2023年度は1年を通して、病院周辺花壇の整備(除草・灌水・種まき・花植替え・除草剤散布・施肥・花除去・ロープ柵設置・落葉清掃)を実施していただき、当院患者の屋外訓練時や近隣住民への心の癒しに、多大なる貢献をしていただいた。

2023年度の実績

- 2023年4月14日
ボランティア希望者受入審議
- 2023年5月12日
活動状況報告・ボランティア控室整備
- 2023年10月1日
活動状況報告
- 2024年10月13日
活動状況報告
- 2024年1月12日
活動状況報告・ボランティア表彰

第Ⅲ章

部 署



スタッフ体制

武中基泰、池田ゆき医師が退職し、4月1日より慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室の河口大洋、松原大樹医師(専修医)が交代着任した。

2023年度行動計画

各病棟に専従医を配置し体制強化加算1を継続し、高い入院診療単価を確保する。

平均在院日数を短縮させながら適時転院患者を受け入れ満床状態を維持する。

外来患者数(紹介患者及び通所、訪問リハビリテーション利用者含む)を増加させ、筋電図、CT検査、上下肢痙縮に対するボツリヌス療法、各種予防接種などの件数を増やし外来診療単価アップを計る。

自己研鑽のための学会、研究会への出席及び発表を促し、多職種と協働しながらデータベースを活用して質の高いリハビリテーションの提供を目指す。

また本年度は7月の病院機能評価受審に向けて日々その準備を行った。

部署内2023年度の活動総括

昨年に引き続き各病棟全てに専従医配置を行い(2階西村、3階新城、4階三浦医師)、体制強化加算1を維持した。日勤帯で各医師の定期的な不在となる時間(外勤など)は大江医師が専従医代行を継続した。

リハビリテーション科外来診療は江端、鈴木医師中心に毎日行い、宇内医師が月1回(第3週金曜日)、水野医師が隔週(第2、4週木曜日)で外来診療を継続した。その他退院後の通院リハビリテーション、介護保険該当者対象の通所及び訪問リハビリテーションや相談外来などの対応を江端院長が中心に行った。

また新型コロナ感染症対策としては、新型コロナウイルス感染症陽性のリハビリテーション目的の入院患者を急性期医療機関より積極的に受け入れた。一方外来においては職員を中心に迅速及びPCR検査を行った。

また装具外来は毎週火曜日午前と金曜日午後に行い、また痙縮外来も適時行った。内科外来は職員中心で、後に近隣施設から依頼の各種ワクチン接種等を追加し行った。

新型コロナ感染症は第5類に引き下げられたが、慎重にその対策を段階的に施していった。職員の委員会やカンファレンス、勉強会、講演会の実施及び他施設への参加や家族の面会制限などを徐々に解除していった。

週間予定としている毎日昼の各病棟での新入院カンファレンスは継続、月曜日夕の医局会及び抄読会開催、また毎日各階看護師長及びソーシャルワーカーとの入院審査会は継続して行った。

また多職種によるリハビリテーションカンファレンスも毎日各病棟で継続して行った。

その他、脳卒中教室は毎週水曜日午後に開催し、参加者は延べ373名であった(前年度302名)。

当直体制は、当院常勤医師6名で平日と祝休日をカバーし、土曜日は慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室所属医師にご協力を頂いた。

その他の診療科(非常勤)としては、毎週1回の精神科(葉梨喬広医師)と皮膚科(山本奈緒医師)はそのまま継続、口腔外科(後藤陽子歯科医師)も第3週を除く木曜日午後に診療を引き続きお願いした。

月1回の眼科は済生会神奈川県病院の医師に第三月曜日午後に入院中患者の診察をお願いし、伏屋一樹医師が7月に鈴木晃成医師に交代した。

研究面では質の高い、最先端のリハビリテーションを目指しデータベースを活用できるよう引き続きデータの収集や運用に努めた。

外来における嚥下造影を含めた嚥下機能評価も鈴木医師と寺見看護師を中心に更に活発に行い、研究会や勉強会での参加や講演を当院や近隣の施設などで数回行った。また通所及び訪問リハビリテーションの診療やケアマネージャーや家族を含めたリハビリテーション会議についても江端院長等が中心に対応した。

また新たに1月より排尿自立支援の活動も西村医師を中心に開始した。

2023年度の実績

全106床中、新型コロナウイルス感染症院内発生の影響も受けながら平均入院患者数は103.6人/日(昨年104.5)だった。

全病棟体制強化加算1を継続しながら昨年同様急性期医療機関より新型コロナウイルス感染症陽性患者を積極的に受け入れ、昨年は年間67,467千円の増収を得たが今年度はこれに関連する加算の減額により10,248千円にとどまった。今年度の入院収益は1,729,755千円で、昨年度1,785,490千円だったことから55,735千円の減収となった。これにより入院診療単価は45,079円/人で昨年46,815円/人と比べると前年度比1,736円/人の減収となった。

外来患者数は10.6人/日(前年度11.2人)で外来診療単価は11,812円/人(前年度11,419円/人)であったが、外来収益は45,866千円(前年度46,866千円)で前年度比1,000千円減収となった。筋電図検査も昨年19件が今年度12件と更に減少した。

一方痙縮外来のボトックス注射件数は昨年114件が今年度144件と増加した。

地域住民の予防医療に貢献目的の外来でのインフルエンザ、肺炎球菌予防接種は年間インフルエンザ109件(前年101件)、肺炎球菌8件(前年14件)であった。

また今年度より近隣施設からの各種ウイルス抗体検査や予防接種依頼の受け入れを開始し、各種ウイルス抗体検査は15件、B型肝炎ワクチン14件、風疹麻疹混合と水痘ワクチンは各3件、おたふくワクチンは9件であった。

新型コロナウイルスPCR検査件数は75件(昨年359件)であった。

一方急性増悪による転院数は年間42件で昨年39件より若干増加したが、昨年度より重症者を受け入れているためと思われた。

また新型コロナウイルス感染症により延期されていた病院機能評価受審は7月19、20、21の3日間で行い、本審査及び高度専門ともに認定取得できた。

2023年度科別外来患者延件数は以下のとおり。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
内 科	18	20	19	10	12	12	13	14	21	16	20	59	234
リハ科	269	285	243	289	322	306	339	335	321	343	296	301	3,649
合 計	287	305	262	299	334	318	352	349	342	359	316	360	3,883

(リハ科＝リハビリテーション科、内科は職員中心、皮膚科含む)

(前年度合計内科412人、リハビリテーション科3,691人、全合計4,103人)

◎学会研究会発表及び講演

- 1) 新型コロナウイルス感染症対策を機にICT活用が進んだ事例～院内研修と脳卒中教室：新城吾朗
他 リハビリテーション医療デジタルトランスフォーメーション研究会第1回学術集会
2023.4 石垣島 沖縄
- 2) 慢性期脳卒中片麻痺患者におけるロボットを用いた前腕回内回外訓練の効果及び適応について：
河口大洋他 第60回日本リハビリテーション医学会学術集会 2023.6 博多 福岡
- 3) 筋萎縮性側索硬化症患者に対し肺容量リクルートメントトレーニングが呼吸機能へ与える効果：
河口大洋他 第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会 2023.11 宮崎
- 4) Relationship between Lung Volume Recruitment and Survival in patients with
Amyotrophic Lateral Sclerosis : Kawaguchi T. PACT ALS 2023 Sep. 2023 Kuala
Lumpur Malaysia
- 5) ポリファーマシーの改善について；三浦治己 新城吾朗 第4回QC発表会 2024.2(院内)
- 6) 患者の意思決定支援～行動経済学の活用：鈴木俊幸 慈誠会グループ第1回JSK臨床研究報告
会教育講演 2023.9 練馬 東京(オンライン)
- 7) 誤嚥性肺炎の予防と摂食・嚥下外来の活用：鈴木俊幸 六角橋地域ケアプラザ主催勉強会
2024.1 横浜
- 8) 横浜市医師会・神奈川県医師会主催令和5年度在宅食支援(摂食・嚥下)の会：鈴木俊幸他
2023.8 当院講堂

2023年度看護部年報

開院6年目を迎え、回復期と高度回復期の病院機能評価を受審し、認定をいただくことができました。

コロナの影響で受診が先送りとなり、準備期間が長くなったこともあります。受審にあたり、これまでの業務や現在の課題を抽出し、職員が一丸となって取り組むことで病院の質が向上したと評価しています。

少子高齢が進む中、回復期医療も大腿骨頸部骨折や脳血管疾患、誤嚥性肺炎など疾病構造の変化に対応していかなければなりません。当院では高齢者の患者さんとともに比較的若年層の患者さんも多く、社会復帰に向けた取り組みなど、これまで以上に看護の役割が拡大しております。

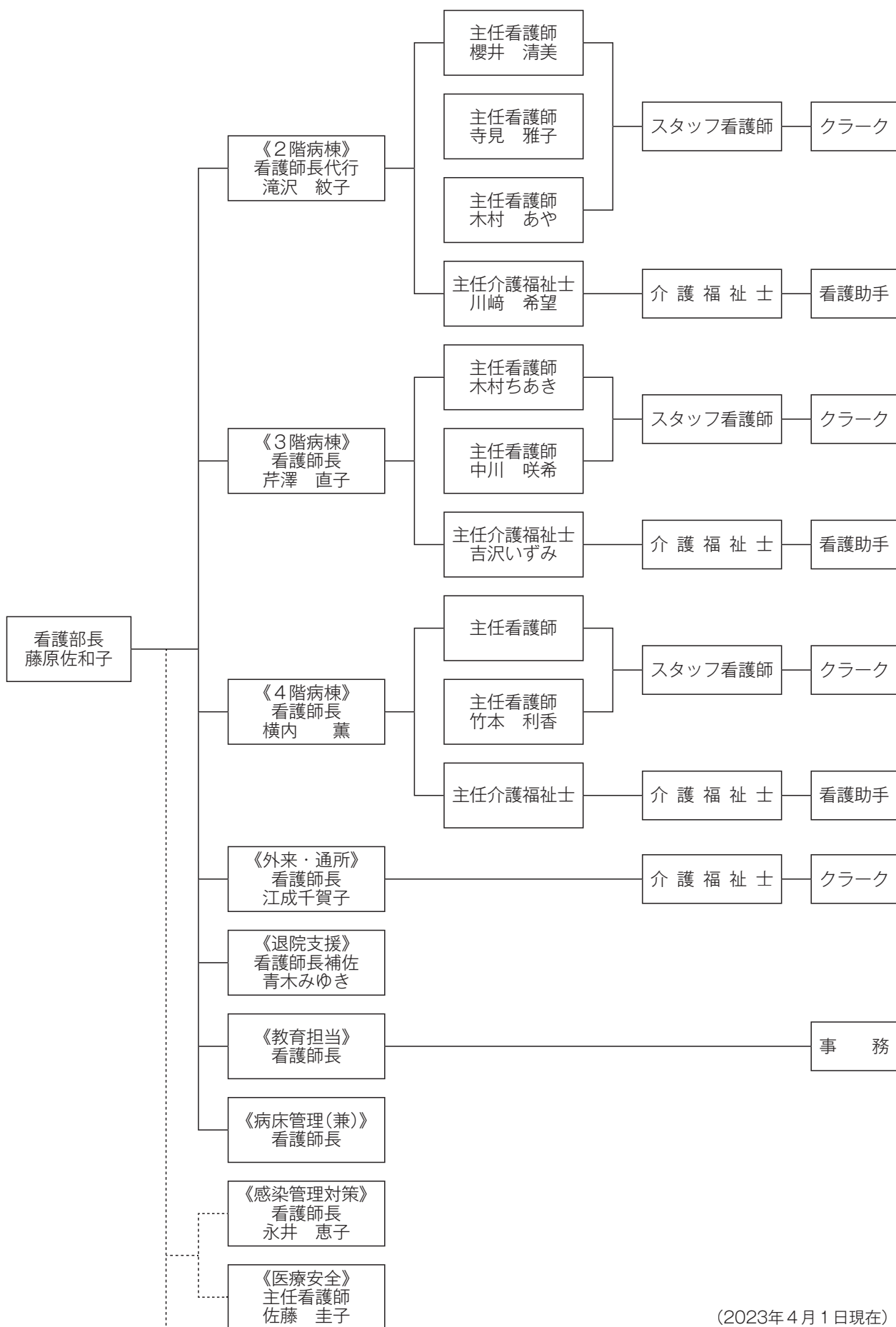
当院ではチーム医療を主軸として医療を提供しております。多職種と協働し患者さんのいきかたを支援できるようカンファレンスを行い、実行できる医療や看護を提供しております。

入院中だけの患者さんを支援するだけでなく、御家族や社会的支援をしていただく方に、どのような支援していくのか、地域の皆様と協働し、状況に対応できる医療・看護を推進していきたいと考えております。

今年度からまだ回数は少ないのですが退院後訪問を始めました。患者さんやご家族から直接お話を伺うことで学ぶことも多くありました。

今後もできるだけ患者さんやご家族の声をいただき、その声に対応できる看護部にしていきたいと考えております。

看護部組織図



(2023年4月1日現在)

スタッフ体制

回復期リハビリテーション入院料 1（看護師13：1 介護福祉士30：1）

病棟師長代行	1 名
主任看護師	3 名
スタッフ看護師	12 名
アルバイト看護師	1 名
主任介護福祉士	1 名
介護福祉士	5 名
看護補助者	1 名

2023年度行動計画

病棟チームとして多職種とコミュニケーションをとり、円滑な病棟管理をおこなう

1. 看護・介護実践能力の向上
2. 安全で質の高い看護・介護の提供
3. 安心して入院から退院までを過ごすことができる
4. 適正なベッドコントロールの実施

部署概要

2階病棟は32床あり、脳血管疾患や脊髄損傷の患者様が多いため後遺症が残る患者様も多くいらっしゃいますが、他職種と連携しながら患者様のADL向上をサポートし、在宅復帰、社会復帰を目指しています。特に摂食嚥下認定看護師を中心に、口から食べることを大切に口腔ケアや食事への介入など、嚥下障害からの回復をサポートします。また、少しでも患者様に和んでいただけるよう、季節ごとのレクリエーションに取り組んでいます。昨年はクリスマスに、ピアノとハンドベルでミニコンサートを実施することができました。

回復期リハビリテーション病院での入院は長期になることもありますが、患者様とご家族様が安心して退院を迎えることができるよう支援させていただいています。

2023年度の活動総括

多職種により勉強会の開催	5 回
多職種での症例検討	2 回
家屋評価への看護師同行	3 件
退院後訪問への看護師同行	2 件
訪問看護研修	1 名

2023年度実績

	2023 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2024 1月	2月	3月
重症度割合 (%)	40.0	55.6	71.4	30.0	46.2	45.5	36.4	42.9	40.0	57.1	42.9	37.5
改善度 (%)	33.3	100.0	60.0	100.0	66.7	100.0	100.0	83.3	100.0	100.0	71.4	100.0
在宅復帰率 (%)	77.8	100.0	77.8	100.0	100.0	88.9	83.3	84.6	100.0	100.0	72.7	100.0
実績指数	38.71	64.62	54.04	79.06	58.18	45.05	54.78	66.82	74.05	48.67	45.01	65.29

スタッフ体制

回復期リハビリテーション入院料 1 (看護師13：1 介護福祉士30：1)

看護師：病棟師長	1名
主任看護師	2名
看護師	13名
介護福祉士：主任介護福祉士	1名
介護福祉士	5名
看護助手	1名

2023年度行動計画

チーム力を発揮し、質の高い看護・介護実践を提供できる

1. 自己研鑽に努め、専門職としての実践力向上
2. 質の高い安全な看護、介護の提供
3. 安心して退院できる環境を提供する
4. 病床管理を適切に行い収益増加に貢献する

部署概要

看護師・介護福祉士の家屋内動作訓練同行と退院後訪問件数について、2023年度は前年度と比較し8件と大幅に増えた。これは、QC活動のメンバーが同行の必要性をスタッフへ投げかけ取り組んだ結果だと考える。また、2023年度は、病院機能評価(本審査・高度専門)受審・認定という大きな目標があり病棟一丸となり良い結果に繋がった。

2023年度の活動総括

QC活動	1例
看護師・介護福祉士勉強会開催	3件(排泄ケア・認知症ケア・退院サマリーの記入)
多職種による勉強会開催(トランスデモンストレーション含む)	9件
多職種による症例検討	1件
家屋内動作訓練への看護師同行	5件
退院後訪問	3件
介護福祉士による在宅退院に向けたオムツのあて方指導	33件
経管栄養離脱率	54.5%
脳卒中教室参加人数	49名
医療安全カンファレンス	50件

2023年度実績

	2023 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2024 1月	2月	3月
重症度割合 (%)	50.0	41.7	58.3	42.9	25.0	45.5	58.3	42.9	42.9	50.0	41.7	44.4
改善度 (%)	66.7	66.7	100.0	85.7	100.0	83.3	80.0	66.7	25.0	50.0	85.7	100.0
在宅復帰率 (%)	92.3	72.7	100.0	90.0	100.0	88.9	90.0	92.3	100.0	100.0	83.3	100.0
実績指数	46.15	47.27	68.32	57.82	44.44	59.51	42.89	68.22	41.98	52.53	59.46	74.35

スタッフ体制

回復期リハビリテーション入院料 1（看護師13：1 介護福祉士30：1）

看護師：看護 師 長：1 名

主 任 看護 師：1 名

ス タ ッ プ 看護 師：15名

介護福祉士主任：0名

スタッフ介護福祉士：6 名

看護 助 手：1 名

2023年度行動計画

看護・介護ともに実践力を高め、重症入院、急変患者に対応できる

1. 自己研鑽に努め実戦力を向上する
2. 安全で安心な看護・介護の提供
3. 適切な入院環境が提供できる
4. 病院の収益に貢献する

部署概要

症患者様だけでなく若年の患者様も多く、自宅退院や職場復帰に向け、看護・介護の介入を行ってきました。自宅退院へ向けた取り組みとして、家屋内動作訓練への同行や退院後訪問で生活状況の確認、また、介助者に合わせた家族指導を行ってきました。

リハビリテーションが継続できるよう全身状態の管理に努め、リハビリテーション意欲を維持できるように訓練時間以外にレクリエーションも実施してきました。

前年度のQC活動で評価したおむつ交換についても継続し、入院生活における苦痛の軽減に努めてきました。

2023年度の活動総括

QC発表	1 例
BLS参加人数	15名参加／27名中
アクシデント3 a以上のインシデント	0 件
在宅退院のための指導実施	14件(介護福祉士によるおむつ指導も含む)
脳卒中教室参加	31件
急性増悪による救急搬送	10件
PEG造設	3 件

2023年度実績

	2023 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2024 1月	2月	3月
重症度割合 (%)	38.5	45.5	60.0	61.5	42.9	33.3	50.0	45.5	46.2	41.7	45.5	55.6
改善度 (%)	50.0	66.7	66.7	42.9	80.0	66.7	100	66.7	100	44.4	25.0	66.7
在宅復帰率 (%)	76.9	100	90.9	75.0	84.6	80.0	92.9	88.9	83.3	75.0	80.0	80.0
実績指数	53.42	47.06	56.11	44.71	53.15	42.62	63.14	61.09	46.17	35.90	50.43	54.67

スタッフ体制

リハビリ専門医師 6名(常勤 2名・非常勤 2名・研修医 2名)、内科医師 1名

2023年度行動計画

他部署および地域に貢献できる外来診療が行える

部署概要

外来では主に当院を退院された患者さんを継続的に診療やリハビリテーション・看護をしています。また、地域医療機関と連携をして摂食嚥下外来や痙縮外来・装具外来などの特殊外来を新規で受入れ、診察や検査・栄養指導・リハビリテーション・摂食嚥下指導等を行っています。

生活の不安を少しでも解決策をリハビリテーション病院ならではの方法でサポートし、患者さんやご家族の方が少しでも安心できるように努めています。

部門内2023年度の活動総括

当院を退院された後は、外来または通所リハビリテーションにて継続的にリハビリテーションを行っています。自宅での生活や復職で困っているなどを聞き、その人にあった生活スタイルの工夫を一緒に考えながらリハビリ等の支援を行っています。

特殊外来では、地域医療機関や施設からご紹介を頂き、装具外来や摂食嚥下外来に受診される患者さんも徐々に増加傾向にあります。

また、地域関連の医療機関からの依頼で栄養相談・指導や筋電図検査等も行っております。

これからもチームで協働し、外来診療および特殊外来の拡充できるようにコツコツと努力し、活動していきます。

2023年度の実績

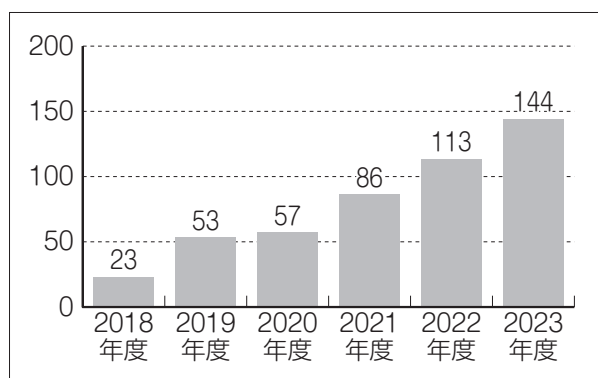
今年度はリハビリの相談に関して100件のメールや電話のお問い合わせがあり、毎年40件前後の患者さんが受診されており、主に摂食嚥下外来が多かったです(下記表1参照)。外来人数は例年ほとんど変化がないのですが、摂食嚥下外来やボトックス治療は増加傾向にあります。摂食嚥下外来は他施設のご紹介が23件で医師・摂食嚥下認定看護師・栄養管理士および必要時には言語療法士が介入するチームで行い、誤嚥性肺炎予防などの指導等を行っています。

また、ボツリヌス療法は当院退院後の患者さんや他施設からのご紹介で治療を行っており、件数(図1参照)は増加しています。

【表1】

年 度	外来人数	摂食嚥下 外来	嚥下造影 検査(VF)	ボトックス 治療	ブロック トリガー ポイント 注射	相談 外来受診	筋電図検査
2018年度	2,341名	18名		24件	1件		
2019年度	3,053名	20名		53件	5件		1件
2020年度	3,618名	26名		57件	17件	4名	4件
2021年度	4,020名	33名	28件	86件	14件	1名	4件
2022年度	4,103名	55名	23件	113件	14件	2名	3件
2023年度	3,883名	64名	55件	144件	5件	2件	7件

【図1 ボトックス注射件数表】



看護師 会議・委員会 一覧表

会議・委員会	構 成 員	審 議 内 容	開 催 日
看護師長会議	看護部長 全看護師長	看護部門必要事項の連絡。看護業務の検討、改善、調整、看護管理者としての能力向上のための学習等をする。	毎週火曜日 14:00～15:00
看護部合同会議	看護部長 全看護師長 全看護主任	看護部門必要事項の連絡。各委員会からの報告および検討事項など報告、検討、改善、調整を図る。	1回/月 第1火曜日 14:00～15:00
看護主任会議	全看護主任	看護部門必要事項の連絡。看護業務の検討、改善、調整、看護管理者としての能力向上のための学習等。主任としての能力向上、看護の質向上のための学習を行う。	1回/月 第3月曜日 14:00～15:00
教育委員会	各看護単位 の委員1名	専門職業人としての質的向上をめざし、院内教育を企画運営する。	1回/月 第2水曜日 14:00～15:00
FIM必要度 委員会	各看護単位 の委員1名	看護必要度の評価および記録の充実の充足を目的とする。	1回/月 第3金曜日 14:00～15:00
褥瘡対策 リンクナース会	各看護単位 の委員1名	病院として組織的な対策によって、褥瘡に対する適切な処置・治療の実施を指導・管理する。	1回/月 第2金曜日 14:00～15:00
感染管理 リンク会	各看護単位 の委員1名	委員は感染管理対策室と連携を取りながら、臨床の現場における感染対策の中心的な存在となり、より実践的に感染対策を推進するために調査・改善・評価を行う。	1回/月 第3木曜日 14:00～15:00
退院支援 リンクナース会	各看護単位 の委員1名	退院支援に係る課題の明確化と解決に向けた取り組みの検討をする。	1回/月 第2木曜日 14:00～15:00
リスク マネジメント 委員会	各看護単位 の委員1名	インシデントレポートの集計と分析から危険因子を周知させ、タイムリーにフィードバックする日々の実践を通して事故防止の意識向上を図る	1回/月 第4水曜日 14:00～15:00
看護業務委員会	各看護単位 の委員1名	看護の質の向上を目指し、看護業務の見直し改善を図る。	1回/月 第4木曜日 14:00～15:00
認知症 看護委員会	各看護単位 の委員1名	認知症看護の正しく理解し記録の把握、身体拘束の評価及び問題点を抽出し、認知症に係ること看護・介護の啓発をする。	1回/月 第4金曜日 14:00～15:00
記録委員会	各看護単位 の委員1名	看護実践が見える記録を目指した取り組みを行う。	1回/月 第1木曜日 14:00～15:00
臨床指導者 委員会	各看護単位 の委員1名	看護学生の実習状況の把握と情報の共有を目的とする。	1回/月 第1金曜日 14:00～15:00

介護福祉士 会議・委員会 一覧表

会議・委員会	構 成 員	審 議 内 容	開 催 日
主任介護福祉 会議	看護師長 主任介護福祉士	介護部門必要事項の連絡。介護業務の検討、改善 調整、介護管理者としての能力向上のための学習など。主任としての能力向上のための学習を行う。	1 回／月 第 3 水曜日 14：00～15：00
教育記録委員会	主任看護師 各看護単位の 介護福祉士 1 名	介護福祉士としての質的向上をめざし、教育を企画運営する。	1 回／月 第 2 水曜日 15：00～16：00
感染管理リンク 介護福祉士会	主任看護師 各看護単位の 介護福祉士 1 名	委員は感染管理対策室と連携を取りながら、臨床の現場における感染対策の中心的存在となり、より実践的に感染対策を推進するために調査・改善・評価を行う。	1 回／月 第 3 木曜日 15：00～16：00
退院支援リンク 介護福祉士会	主任看護師 各看護単位の 介護福祉士 1 名	退院支援に係る課題の明確化と解決に向けた取り組みを行う。	1 回／月 第 2 木曜日 15：00～16：00
リスク 介護福祉士 委員会	主任看護師 各看護単位の 介護福祉士 1 名	インシデントレポートの集計と分析から危険因子を周知させ、タイムリーにフィードバックする日々の実践を通して事故防止の意識向上を図る。	1 回／月 第 4 水曜日 15：00～16：00
介護業務委員会	主任看護師 各看護単位の 介護福祉士 1 名	介護の質の向上を目指し、介護業務の見直し改善を図る。	1 回／月 第 4 木曜日 15：00～16：00

スタッフ体制

理学療法士 35名、作業療法士 35名、言語聴覚士 12名、事務職 1名

2023年度の行動計画

1. 自己研鑽に取り組む風土をつくる
2. 病院機能評価に向けての準備
3. 入院から通所・訪問リハビリへの橋渡しの強化
4. 病院収益に貢献する

2023年度の活動総括

今年度は、病院機能評価を受審しました。Covid-19の影響もあり当初の受審予定より大幅に遅れましたが、準備にあたり各職種・スタッフの協力により、本審査(リハビリテーション病院 3rdG : ver3.0)・高度専門(回復期リハビリテーション)共に認定を取得することができました。特に高度専門において、組織的な支援により、学会発表や研修の参加が可能であり、専門職の育成が行われている。と、セラピスト部の質向上に向けた活動は高く評価されました。

今後も引き続き、患者様へ精一杯のリハビリテーションを提供し、地域に根ざした安心・安全で信頼の得られる病院となるよう努力していききたいと思います。(文責：部長代行 田中敦史)

◎理学療法部門

理学療法部門は9月に横浜で開催された日本神経理学療法学会に90%以上のスタッフが参加し、最新の知見に触れる事が出来ました。研究活動の推進として、学会表彰1件、論文・書籍5件、学会発表14件、院外講師12件、学会での座長4件を行い、とても充実した1年となりました。VICON(3次元動作分析装置)による歩行・装具評価も年間39件実施し、測定データを分析した発表で学会表彰を頂く事が出来ました。病院機能評価の高度専門審査では、PT部門が行っている臨床認定カリキュラムを高く評価して頂き、今年度は23名の受講者を輩出しました。地域貢献に関しては、地域活動・リハビリ専門職派遣事業への協力として、健康教室やフレイル予防体操の講師など5件派遣し、近隣地域との交流も行えました。引き続き、良質なリハビリテーションを提供出来るよう、また地域との情報共有やシームレスなリハビリテーション提供に努めてまいります。

(文責：技師長 今村朋博)

◎作業療法部門

作業療法部門において、2023年度の研究活動として、論文投稿3件、各種学会発表21件実施しました。研究活動において、経験の浅いスタッフへ指導し、後押しした結果、昨年度を上回る発表

を行うことが出来ました。また、臨床実習指導者講習を修了したセラピストも6名増え15名となりました。

2024年度も引き続き研究活動の実施と研修への参加推進を図り、教育体制の強化・臨床の質向上を目指してきたいと思います。
(文責：部長代行 田中敦史)

◎言語聴覚部門

病院機能評価を受審しました。「高度・専門審査」のリハビリに関する項目にて、当院唯一の「I判定(秀でている)」評価をいただきました。評価理由のコメント内で「言語訓練では訓練法を開発し、高次脳機能障害学会で受賞した実績があり、高く評価したい。」とST部門に対してのお褒めの言葉をいただきました。高次脳機能障害学会は高次脳に関しての日本最大の学会であり、受賞した賞(長谷川賞)は、過去30年間で24論文のみが表彰されている栄誉ある賞です。そのうちの3論文を当院所属のSTが受賞しており、そこで開発された訓練法は日々の臨床で活用されています。今後も臨床・研究の両輪にて患者改善に寄与していきたいと考えております。

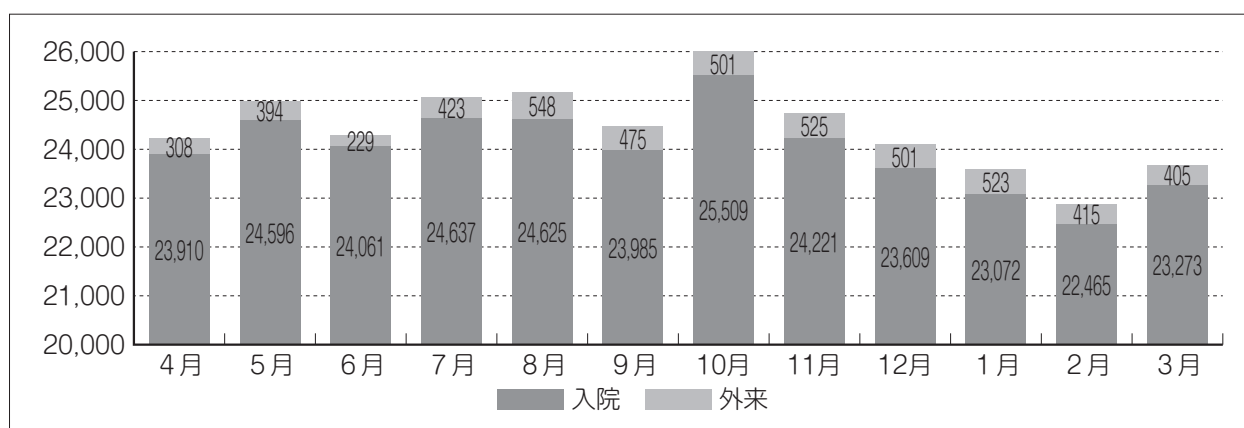
(文責：技師長 山崎勝也)

2023年度の活動実績

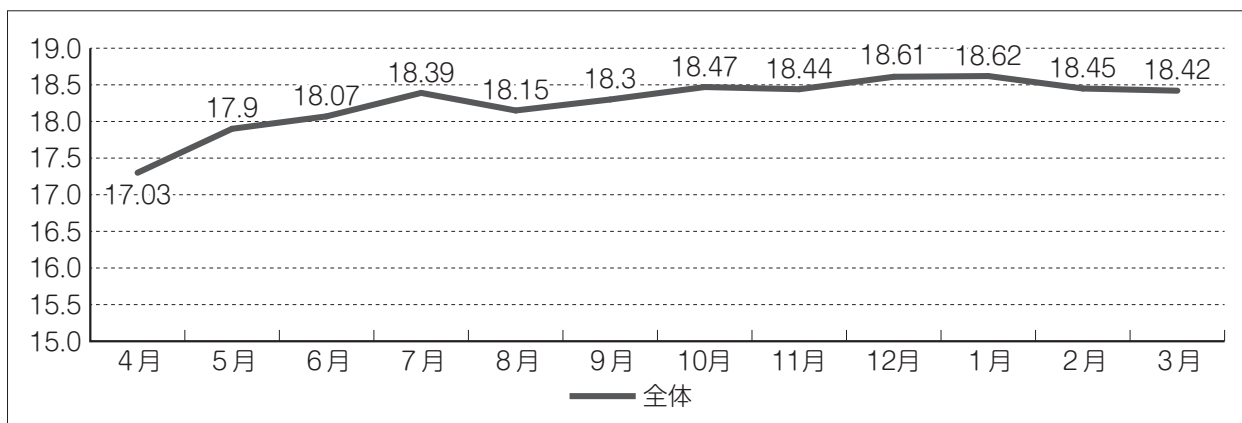
1. 研究活動・教育活動

- ・部門内症例検討会開催
- ・各種学会・研究会での発表・論文投稿(研究実績の項参照)
- ・臨床実習引き受け(理学療法5校・作業療法3校・言語聴覚療法2校より合計13名)

2. 患者訓練実施単位数(入院／外来)



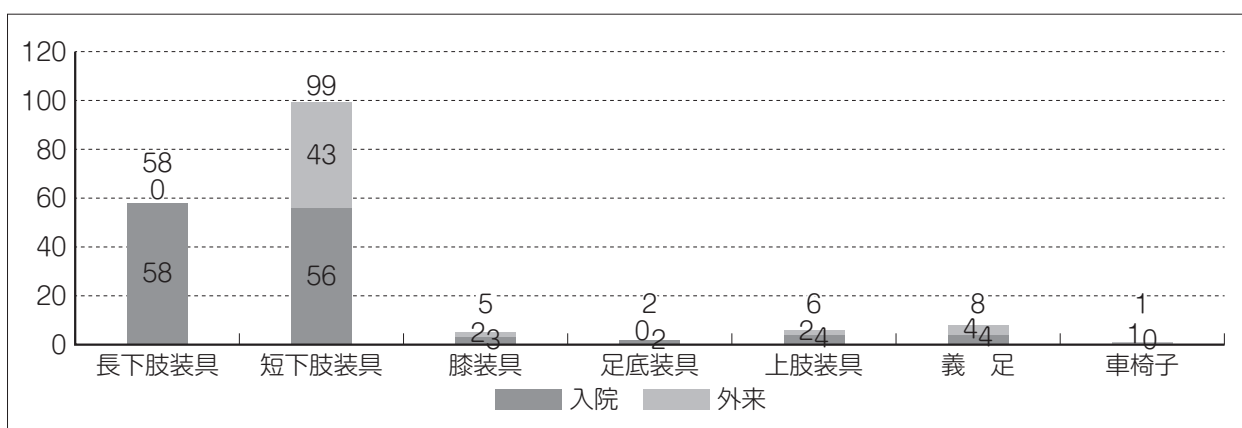
3. セラピスト稼働単位数



4. 居宅生活機能評価実施件数



5. 義肢装具作成件数



6. 地域連携実績

①近隣地域ケアプラザ開催の地域住民を対象とした健康教室へ講師派遣を行った。

・菅田地域ケアプラザ

デイサービスへ機能訓練担当として週2回、セラピストを派遣

近隣住民への健康講座(6月7日、8月1日、15日開催)

②リハビリテーション専門職派遣事業への協力

・神奈川区役所(6月27日開催)

- シニアクラブ星友会(9月22日開催)
- 元気づくりステーション松見(10月23日開催)
- 元気づくりステーション北原(11月7日開催)
- 片倉三枚地域ケアプラザ(3月22日開催)

スタッフ体制

臨床工学技士 常勤 1 名

2023年度行動計画

各部門の医療機器および訓練機器の管理体制の充実と安心安全な医療を患者様に提供するほか、診療や訓練に関わる業務を積極的にサポートする。

部門内2023年度の活動総括

BLS指導に参加し急変時院内活動への協力体制を積極的行った。

医療機器安全管理が構築されトラブル報告無く最適な医療が患者様に提供できた。

2023年度の実績

他職種間で連携が図れ、検査業務・画像処理補助業務・診療補助業務に協力できた。

スタッフ体制

常勤 4名(欠員 0名)

2023年度の活動総括

昨年末より各病棟に担当薬剤師を配置することができた。これまで薬剤に関する問い合わせ窓口が一定せず個別対応であったため病棟と意思疎通が難しかったが、担当者を置くことで、次年度以降きめ細やかな対応が出来るようになる。また今後はプロトコールに基づく薬物治療管理[Protocol Based Pharmacotherapy Management(PBPM)]も検討・導入し、医師・看護師のタスク・シフト／シェアに繋がればと考えている。

処方箋調剤に関しては、前年度と対比して全体的に減少した。薬剤師が関与し処方変更された部分もあるかもしれないが、医師の交代、ポリファーマシーを意識した治療の現れとも言える。一方で医薬品の購入金額(除くボツリヌス毒素製剤)は前年同様であり、いくつかの先発医薬品採用が影響した可能性もある。包括医療であるため、今後は購入金額も減少できるように注意したい。

全国済生会病院薬剤師会としては大きな変革があった1年であった。本部主催薬剤部長会がはじめて開催され、病院経営に薬剤師も関与することが期待された。また病院長会からも同様の要望があり、薬剤師会としても一丸となって期待に応えていく所存である。支部神奈川県済生会としては、はじめて6病院共同で医薬品納入価見積もりを実施し、数千万円の支出削減をすることが出来た。くしくも本部や病院長会からの期待に応えたかたちとなった。今後は共同見積もりのノウハウを、他支部にも波及していきたいと検討している。

一方、不安定な医薬品供給は続いており、治療に必要な医薬品を確保することが最優先課題となっている。また病院薬剤師の人手不足も深刻で、今後は機械化などで対応していかなければならないかもしれない。

最後に、23年4月に大阪府済生会大阪北リハビリテーション病院が開業した。愛知県、当院と合わせ、済生会としては3施設目のリハビリテーション病院である。どこの施設も急性期と比較して少数の薬剤師で業務をしており、今後は連携を密に取り必要な情報交換をしていきたいと考えている。

2023年度の実績

○処方箋調剤

入院定期処方箋(月平均)	:	410.4枚／月(前年度比 94.2%)
件数(処方箋1枚あたり)	:	4.7件／枚
そのた入院処方箋(月平均)	:	623.6枚／月(前年度比 93.4%)
院外処方箋発行枚数(月平均)	:	52.0枚／月(前年度比 73.4%)

※外来院外処方箋発行枚数は減少傾向

外来院内処方箋(月平均) : 19.3枚／月
件数(処方箋1枚あたり) : 2.0件／枚

※外来院内処方箋発行枚数は例年並みで

○注射処方箋調剤

入院注射処方箋(月平均) : 93.1枚／月
件数(処方箋1枚あたり) : 2.1件

※昨年度より減少し、良好な入院管理である

○薬剤管理指導業務として

薬剤管理指導件数(月平均) : 93.2件／月

スタッフ体制

診療放射線技師 1 名

不在時は済生会神奈川県病院放射線科より診療放射線技師 1 名派遣

2023年度行動計画

- ・現状を把握する
- ・他部署とコミュニケーションを図る

2023年度の活動総括

派遣元である済生会神奈川県病院において、退職者やCOVID対応検査の増加に伴い技師派遣が厳しいことが増えたため、当院専任の診療放射線技師を採用しました。

不在時にも対応ができるように画像ファイリングの協力を臨床工学科へ依頼、医師による胸腹部CTの撮影が可能となるように撮影プロトコルおよびマニュアルの改訂を行いました。また、嚥下造影検査における医療者の被ばくを低減するため、医師やSTと話し合いました。

2023年度の実績

【2023年度の検査実績】

検査種別	入 院	外 来	合 計
一 般 撮 影	610	26	636
ポ ー タ ブ ル	162	1	163
骨 密 度	3	0	3
透 視 撮 影	114 (嚥下造影 107)	24 (嚥下造影 24)	138
C T 検 査	766 (造影検査 1)	18	784
画像ファイリング	798	83	881

スタッフ体制

臨床検査技師 1 名

2023年度の活動総括

2023年5月8日から、新型コロナウイルス感染症は「5類感染症」になった。

そのため、PCR検査件数は減少したが、迅速抗原検査は前年度より増加した。

また、新型コロナとインフルエンザの同時流行により、新型コロナ、インフルエンザ共に、迅速抗原検査キットが不足し、入荷制限される事態となった。

確保分で乗り切れたが、今年度も同様の事態となることが予測され、流行の際の試薬の確保が課題である。

2024年の5月から、神奈川県済生会6病院での試薬の共同購入が始まった。

これを機に、情報も共有し、早い段階からこのような事態に備えたいと思う。

2023年度の実績

検査件数の統計表を示す。

【検査統計 2023年度】

総件数合計：8,431件 外来総件数：476件 入院総件数：7,955件

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
			件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数
検 体 検 査	生 化 学	外来	10	10	15	9	11	8	8	10	11	8	7	9	116
		入院	201	214	180	198	190	176	222	198	203	185	179	153	2,299
	血 液	外来	10	10	15	9	11	8	8	10	11	8	7	8	115
		入院	195	210	181	191	181	170	217	198	194	178	179	148	2,242
	凝 固	外来	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
		入院	30	26	21	23	32	26	34	33	32	28	40	25	350
	Dダイマー	外来	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
		入院	43	39	35	42	47	47	55	55	45	42	50	48	548
	尿	外来	3	2	2	0	2	1	0	2	1	3	1	1	18
		入院	89	91	84	83	80	80	94	81	91	79	86	77	1,015
	血 液 ガ ス	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	0	0	0	0	1	0	3	0	2	2	2	0	10
	コロナ抗原	外来	2	3	5	1	2	4	4	4	4	2	3	3	37
		入院	18	16	44	16	28	18	37	9	13	17	11	20	247
ディフィシル	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	入院	0	3	1	3	2	1	2	3	5	4	2	0	26	
その他迅速	外来	0	1	3	0	0	4	4	4	5	2	3	0	26	
	入院	7	6	8	2	1	8	21	8	12	17	11	13	114	
細 菌 ・ 病 理	一 般 細 菌	外来	4	4	4	3	3	4	3	3	4	4	3	3	42
		入院	22	21	24	14	14	11	32	17	17	29	24	9	234
	抗 酸 菌	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	細 胞 診 ・ 組 織 診	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
P C R	外来	2	3	21	0	1	2	2	1	0	1	1	47	81	
	入院	24	10	27	10	12	13	30	4	3	2	3	28	166	
生 理 検 査	心 電 図	外来	2	1	1	0	1	1	0	0	0	3	0	2	11
		入院	36	35	30	42	43	36	41	43	40	34	40	35	455
	肺 機 能	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	3
	腹部エコー	外来	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
		入院	3	2	5	8	2	4	6	6	3	6	2	1	48
	心 エ コ ー	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		入院	0	3	4	2	8	2	5	0	2	7	5	4	42
	下肢エコー	外来	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		入院	6	10	3	6	4	5	2	6	8	8	9	3	70
	頸 動 脈 エ コ ー	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	表在エコー	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	ドップラー	外来	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		入院	6	11	3	6	4	5	2	6	8	8	9	3	71
筋 電 図	外来	1	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	5	
	入院	1	3	0	2	1	0	0	0	1	0	2	0	10	
ボトックス	外来	2	0	3	1	0	2	2	1	1	2	1	1	16	
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		外来合計	36	36	74	24	31	34	31	36	37	35	27	75	総件数
		入院合計	681	702	652	649	650	602	803	667	680	647	654	568	8,431
		総合計	717	738	726	673	681	636	834	703	717	682	681	643	

スタッフ体制

2023年度は1名が5月末より、もう1名が9月末より産休に入り、県病院から出向1名含めて3名体制であった。病棟専任制。給食は、部分委託(株式会社グリーンヘルスケアサービス)。

2023年度行動計画

栄養管理のアップグレード、摂食嚥下カンファレンスへの週1回参加、NST介入患者の抽出、機能評価受審への準備、厨房スタッフ向け研修会実施、リハビリテーションに貢献できる食器・食具の運用、栄養情報提供加算、栄養指導件数の件数確保、特別食加算割合60%/月以上。

部門内2023年度の活動総括

2023年度は所属長が5月末より産休に入り不在、かつ人員の入れ替わりが激しい中で、病院機能評価受審、役所の食品衛生監視など困難な業務に対応し、臨床栄養管理、給食管理を問題なく運営してくれました。

入院栄養指導は、人員の入れ替わりが影響し7-10月は低下したが、平均37.3件/月と前年と同数程度の件数を確保しました。外来栄養指導は、退院から外来栄養指導への継続フォローや、摂食嚥下外来の介入により平均15件/月でした。栄養サマリーについては年126枚と、加算がとれない患者様に対しても作成し、継続した栄養管理につなげています。特別食加算においては医師と協力し、平均64.8%/月と高い割合で加算をとれています。

教育面では、自己研鑽で26件/年、セミナーや学会等に参加し科内で情報共有しました。施設側管理栄養士から委託スタッフへ年3回の研修会を継続し、安全な給食提供が出来るよう教育しています。

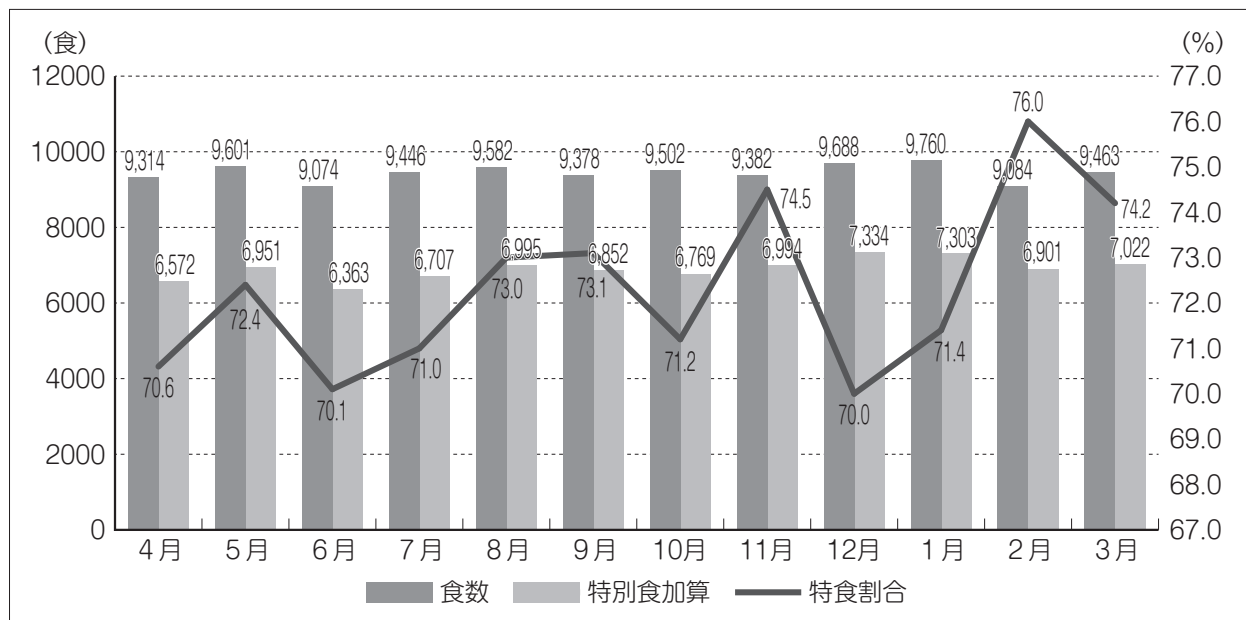
また、チーム医療への参加を積極的に行い、多職種カンファレンスへ毎日参加し、NST回診、褥瘡回診、脳卒中教室の他、病棟で行われている摂食嚥下カンファレンスにも毎週参加し他職種と栄養管理を行っています。

次年度の診療報酬改定に向けた整備も、他職種と連携しすすめています。

2023年度の実績

- 食数：平均9,342食／月、特別食加算：平均6,051食／月、特別食加算割合：平均64.8％／月

【食数・特別食加算割合】



- 栄養指導件数(非算定含む)：入院指導447件、外来指導161件
 栄養サマリー発行数：126件、栄養情報提供加算：76件

部署紹介

2023年度はソーシャルワーカー4名での勤務であった。退院支援看護師2名と共同で全入院患者に対し入退院支援を行った。また、退院支援室・外来看護師・リハビリテーションセラピスト部・医事課とともに地域連携会議を月1回開催した。

2023年度行動計画

1. ソーシャルワーカーとしての専門性向上を目指す
2. 業務の見直しを行い効率性を高める
3. 地域、連携先との連携強化
4. 収益の向上に検討する
5. 療養・就労両立支援指導料の算定

2023年度活動総括

2023年度は、7月19・20日に病院機能評価本体審査、7月21日に高度・専門機能の審査を受け、11月10日に無事に認定を取得することが出来た。医療福祉相談室としては、複数の項目でS評価を頂くことが出来た。これは、済生会の理念である「施薬救療の精神」の下、生活困窮者支援を積極的に行ってきたことが高く評価をされた。地域貢献としては「なでしこプラン」に基づき開院時から行ってきた寿町の健診事業、地域の医療福祉事業者向けのなでしこ研修を行っている。経済的に困窮している方へは無料低額診療事業の活用、在留資格のない外国人や難民申請中の方への複雑な手続きを支援したり帰国へ向けた支援、身寄りのない方へのきめ細やかな支援、家がない方へは生活場所を一緒に探し、いわゆる「ごみ屋敷」の方へは自宅の清掃を支援した。これまで行ってきた、目に見えにくいものの大切な支援が評価されたことは非常に嬉しく思う。

QC発表では、「入退院支援クラウドの導入」をテーマに「ケアブック」や「わんコネ」などのクラウド上での入院相談のメリットデメリットについて発表を行った。毎月約120件ある入院相談のうち半分以上がクラウド上での相談になっており、24時間常時入院相談ができる反面、事務作業の増加が負担となっている。2024年度も横浜市の回復期病床は増加する予定であり、患者さんや急性期病院から選ばれる病院を続けていきたい。

コロナ禍で中止していた「神奈川区ケアマネジャーさんと語る会」が4年ぶりに対面にて開催された。これは、済生会神奈川県病院との合同開催で毎年病院職員とケアマネジャーで顔を合わせ、研修や情報交換を行っていた会である。久しぶりの対面開催ということもあり、初めての参加者も多く、顔を合わせてお話をする大切さを実感した会となった。

2023年度の実績

〔参加会議〕

- 横浜州市立市民病院 パートナー病院連携会議
- 神奈川県医療協ソーシャルワーカー会
- 神奈川県医療協新任研修委員会
- 済生会神奈川県支部MSW部会
- 西区中途障害者支援事業・訪問支援事業研修会連絡会
- 鶴見区中途障害者支援者連絡会・研修会

〔無料低額診療事業委員会〕

- 全職員向け無料低額診療事業研修

〔院内QC発表会〕

- 「入退院支援クラウドの導入」

〔院内勉強会〕

- 各病棟にてミニ勉強会
- 看護部新入職員向け研修会

〔地域連携〕

- 寿町健診事業
- 神奈川区ケアマネジャーさんと語る会
- 六角橋地域ケアプラザ交流会
- 神奈川区花まちさんぽ

【医療福祉相談室 対応数】

2023年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規入院患者	35	32	29	37	38	34	35	39	37	29	37	26	408
退院数	39	31	36	37	43	35	46	39	37	35	37	32	447

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
家屋訪問	2	9	9	6	6	8	9	8	7	4	1	7	76
入院審査会件数	81	88	78	77	88	82	99	92	75	94	93	99	1,046
電話・来所相談のみ	29	22	19	17	26	23	19	21	23	25	23	22	269

スタッフ体制

看護師 2名

2023年度行動計画

ビジョン：患者・家族が退院後もその人らしく生活できるよう、チームで連携し退院支援・調整を進めていく。

- ・自己の学びを深め、支援の質向上に努める
- ・病棟看護師の退院支援に関する知識を高め連携していく
- ・患者・家族を含め地域から信頼される退院支援室を目指す
- ・加算を確実に算定し収益向上に貢献する

部門内2023年度の活動総括

SWと業務分担し、医療依存度の高い患者、高齢患者を中心に退院支援を行いました。

今年度はSWとの勉強会を計画的に行い、事例検討や知識の共有を行ったり業務マニュアルを作成するなど支援の質向上に努めました。

昨年度から実施した退院後アンケートについては集計と分析を行い、退院した患者の困りごとを確認することで退院後のサポート強化の必要性を感じ、退院後訪問指導のシステム化などに取り組みました。院内スタッフとの連携もふまえQC活動の中でアンケート結果のフィードバックや退院支援リンクナース会を通して患者からの意見に対する対応検討を行いました。リンクナース会ではこの他に介護保険の勉強会や事例検討、リンク介護福祉士会と共同で退院前後の訪問促進などを行い、入院中のケアの質向上に努めました。

院外活動では、地域事業所との連携継続とともに地域活動へ参加し、地域貢献事業へも積極的取り組みを始めています。

2023年度の実績

【介入者数】

月	新規介入	継続介入	退院数
4月	12	150	7
5月	8	109	6
6月	6	116	6
7月	8	115	6
8月	12	127	7
9月	11	131	5
10月	14	126	9
11月	11	186	9
12月	14	160	9
1月	11	180	8
2月	9	196	10
3月	11	199	13
合計	127	1,795	95

【外部訪問者数】

月	家屋調査	退院後訪問	事業所訪問
4月	2	0	2
5月	2	0	0
6月	3	0	0
7月	2	0	0
8月	5	0	0
9月	4	0	0
10月	1	0	0
11月	3	0	0
12月	7	1	0
1月	3	1	0
2月	7	1	0
3月	3	0	0
合計	42	3	2

◎活動の詳細

○院内活動・委員会活動

- 6月 退院支援室業務マニュアル作成
- 4～12月 排泄パンフレットの作成、おむつ交換指導テンプレートの作成と運用開始
- 10月 在宅療養指導管理料一覧作成
- 11月 退院後アンケートの集計と評価
- 1月 家屋調査同行時のマニュアル作成
- 2月 QC発表会『退院後アンケート結果から回復期での退院支援を考える』

○院外活動・その他

- ・神奈川区サービス事業所連絡会 看護部会 4回／年参加
- ・六角橋地域ケアプラザと病院の連携計画会議の実施
- ・神奈川区【はなまち散歩】参加
- ・【横浜F・マリノスカップ 第18回 電動車いすサッカー】救護班にて参加
- ・寿検診事業参加
- ・横浜市総合リハビリテーションセンター 高次脳機能障害勉強会・見学会 参加

スタッフ体制

室員：1名

2023年度行動計画

ビジョン：広報を通じて当院の活動を広く知ってもらうこと

- 病院年報2022の発行
- 病院機関紙の発刊(年3回)
- 病院ホームページの更新
- 研修会参加(情報収集のため)
- SNSの活用検討
- 機関紙「済生」へ投稿
- 広報実務研究会へ参加

2023年度の実績

- 病院年報2022の発行(10月)
 - 2022年度の年報より紙媒体ではなくデータにて発行
- 病院機関紙の発刊(年3回)
 - 院内外での職員の活躍を意識した記事を多く掲載
- 病院ホームページの更新(随時)
 - 「面会」についての新規ページを作成
- 機関紙「済生」へ投稿(年6回)
 - 地域との交流が盛んとなり、地域との共同イベントに参加した記事を多く寄稿
- 広報実務研究会へ参加(年1回)
 - SNSを活用した病院の成功事例学び、当院でのSNSを使用方法を検討

スタッフ体制

総務課 7名（常勤4名、常勤嘱託3名）

部門内2023年度の活動総括

新年度に際し昇給月を社会一般的である4月へ変更するために、多方面との調整を行い導入した。

また、持続可能な病院運営を目指し、休日手当を年末年始手当に変更することや住宅手当の支給対象者の見直しを施策した。

その他、働きやすい職場環境の整備のため創立記念日を廃止し、法定休日の優先的な取得が進む施策を講じた。

例年の昇給幅を確保するべく上記のような収支改善への施策を立案・導入する1年であった。

課内においては、業務の効率化・再分配することで適正な人員配置を行う準備を進めた。また、昨年同様既に導入済であったが、運用が不十分であった人事大臣というソフトの活用を再検討し、データの一元管理の導入を継続している。

2023年度の実績

2023年4月3日～5日	新入職職員入職式及びオリエンテーション
2023年4月1日	給与規程を給与規則と整理 昇給月を変更
2023年6月30日	ストレスチェック実施
2023年7月18日～21日	病院機能評価受審
2023年11月1日	「職員の服装の軽装化通年実施」導入
2024年2月～	立替金の給与振込化
2023年11月29日～1日	法定監査(会計監査法人)対応
2024年1月5日	院長年頭所感
2024年2月1日	36協定提出
2024年3月15日	永年勤続表彰

スタッフ体制

医事課 9名(常勤)

2023年度行動計画

医事課の2023年度行動計画を4つの視点で策定。

- 【学習と成長の視点】 医事・介護に関する幅広い知識の習得
- 【業務プロセスの視点】 病院機能評価受審と施設基準管理体制強化
- 【顧客の視点】 SDGsの推進
- 【財務の視点】 病院経営安定化への貢献

部署内2023年度の活動総括

新型コロナウイルス感染症の影響で延期していた病院機能評価(リハ一般・高度)のダブル受審が7月にあったが、無事両方とも認定された。また、病棟クランクを派遣から全て職員化に切り替え、医事課との連携・医療従事者負担軽減のさらなる強化に取り組んだ。SDGs・地域交流においては、医療事務系専門学校の実習生受け入れ、マリノスカップへのボランティア参加、花まちさんぼ(オープンガーデン)等、大きく拡充する年となった。また、2月のQC発表会では医事課・総務課協働で発表するなど他部門との連携も強化した。摂食嚥下分野では、地域ケアプラザでの講演や医師会主催の研修会参加、開業医への訪問などを実施した。施設基準は1月に排尿自立支援加算の届出を行った。

2023年度の実績

- 2023年4月：花まちさんぼ参加・電動車椅子サッカー(マリノスカップ)参加
- 2023年7月：病院機能評価ダブル受審(リハ一般・高度専門)
- 2023年8月：在宅食支援(摂食・嚥下)の会参加
- 2024年1月：摂食嚥下研修会開催(六角橋地域ケアプラザ)
- 2024年1月：排尿自立支援加算の届出
- 2024年2月：QC発表会(職員をつなぐ院内広報誌)

スタッフ体制

理学療法士 2名、作業療法士 2名、介護福祉士 2名、看護師 1名、事務員 1名、運転手 2名

2023年度行動目標

ビジョン：地域で生活する要介護(支援)者に充実した生活期のリハビリを提供する場となる

学習と成長の視点：スタッフが意欲的にスキルアップ・キャリアアップに取り組むことができる研修会の参加、地域リハビリテーションの実習受入

業務プロセスの視点：介護報酬改定にあわせたシステムの構築

顧客の視点：利用者・ケアマネジャーから選ばれる地域リハビリテーションを目指す

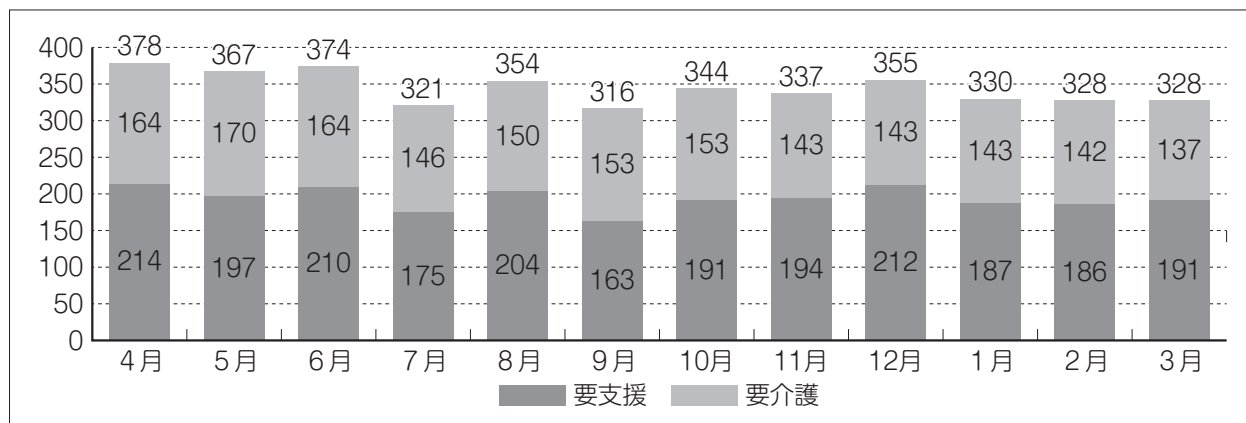
財務の視点：通所、訪問利用者人数の増加、安定化

2023年度の活動総括

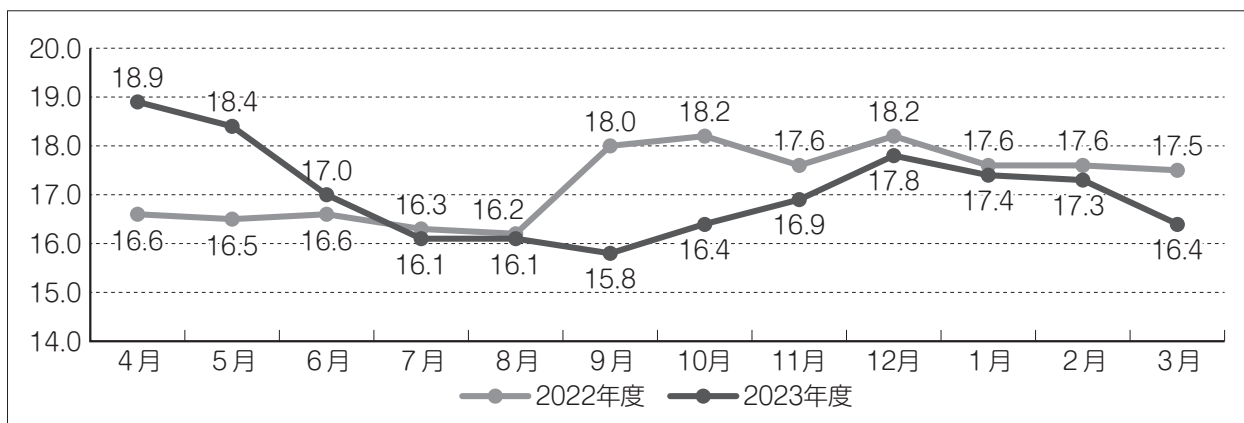
2023年度はリハビリテーションマネジメント加算B(イ)の算定開始、科学的介護情報システム「LIFE」への対応など、積極的に行いました。訪問リハビリテーションでは、昨年度と比較し、倍近い患者様の訪問リハビリを実施する事が出来ました。訪問リハビリ、通所リハビリでの退院後の患者様のフォローアップに取り組めた1年だったと思います。

2024年度は医療報酬・介護報酬同時改訂に対応する準備を進めていくこと、医療(入院・外来)と介護の連携、地域との連携をより深めていきます。

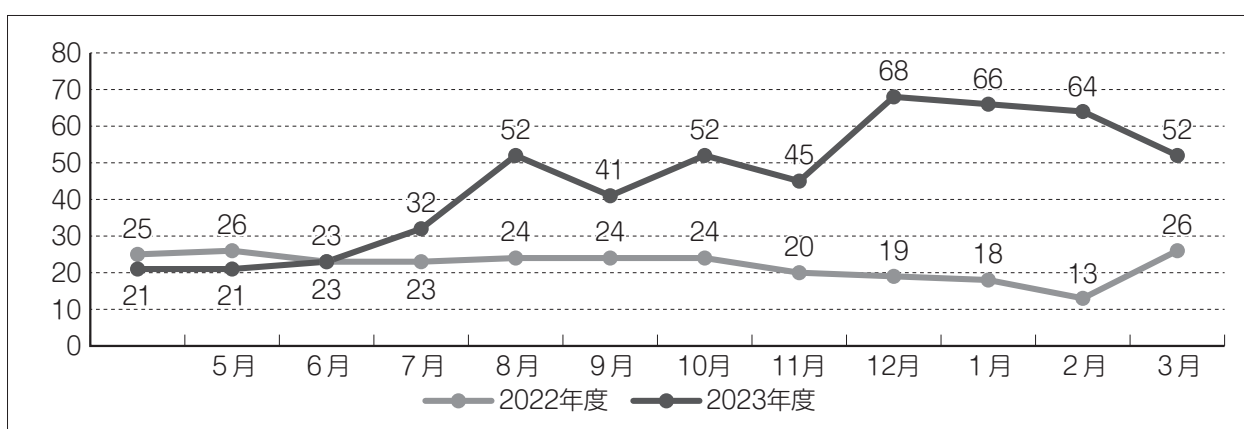
【2023年度 通所リハ利用のべ人数】



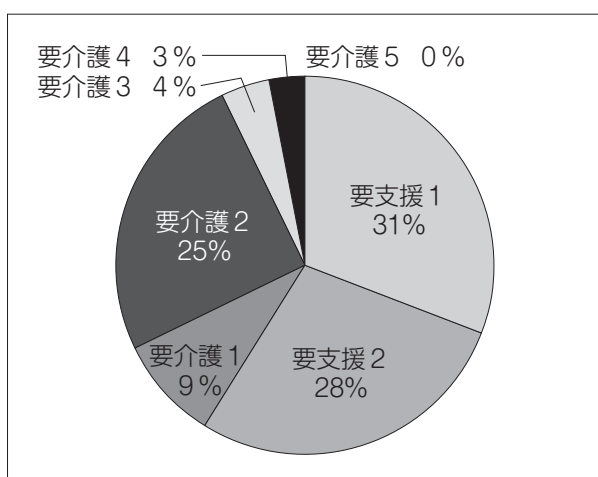
【通所 1 日平均利用者数(2022－2023年度比較)】



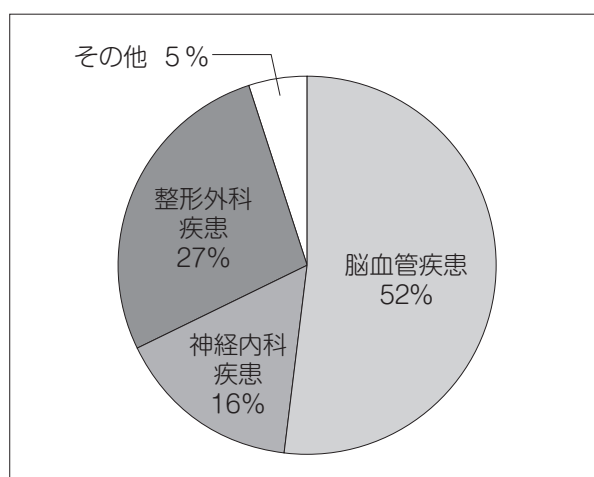
【訪問リハ 2022－2023年度 月延べ人数比較】



【介護度割合】



【疾患別割合】



部署紹介

済生会東神奈川リハビリテーション病院医療安全管理室は、医療安全管理室室長、医療安全管理者(専従)で構成されている。質の高い安全な医療を提供することを目的として、院内各部署の医療安全対策委員と協働し医療安全管理に取り組んでいる。

2023年度の部署目標

医療安全文化の醸成を促進し、安全な医療を提供する

業務内容

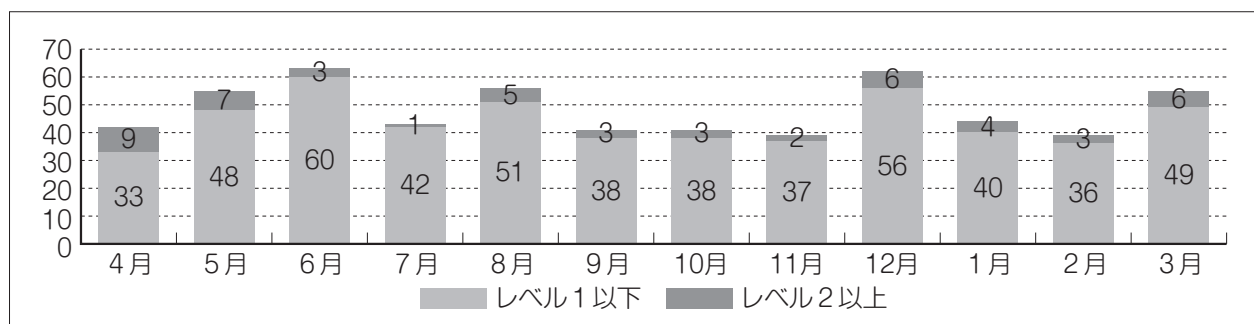
1. インシデントレポートの集計、分析、評価
2. 医療安全研修
3. 医療安全ラウンド
4. 医療安全対策マニュアルの作成及び改訂
5. 医療安全ニュースの発行
6. 医療安全対策委員会の運営
7. 医療安全カンファレンス
8. 各部署における医療安全業務改善計画及び実施状況の把握
9. 患者・家族のクレーム対応
10. 職員からの医療安全に関する相談への対応
11. 連携病院との相互評価

業務実績

1. インシデントレポート集計結果

2023年4月から2024年3月までのインシデント報告件数は580件であった。

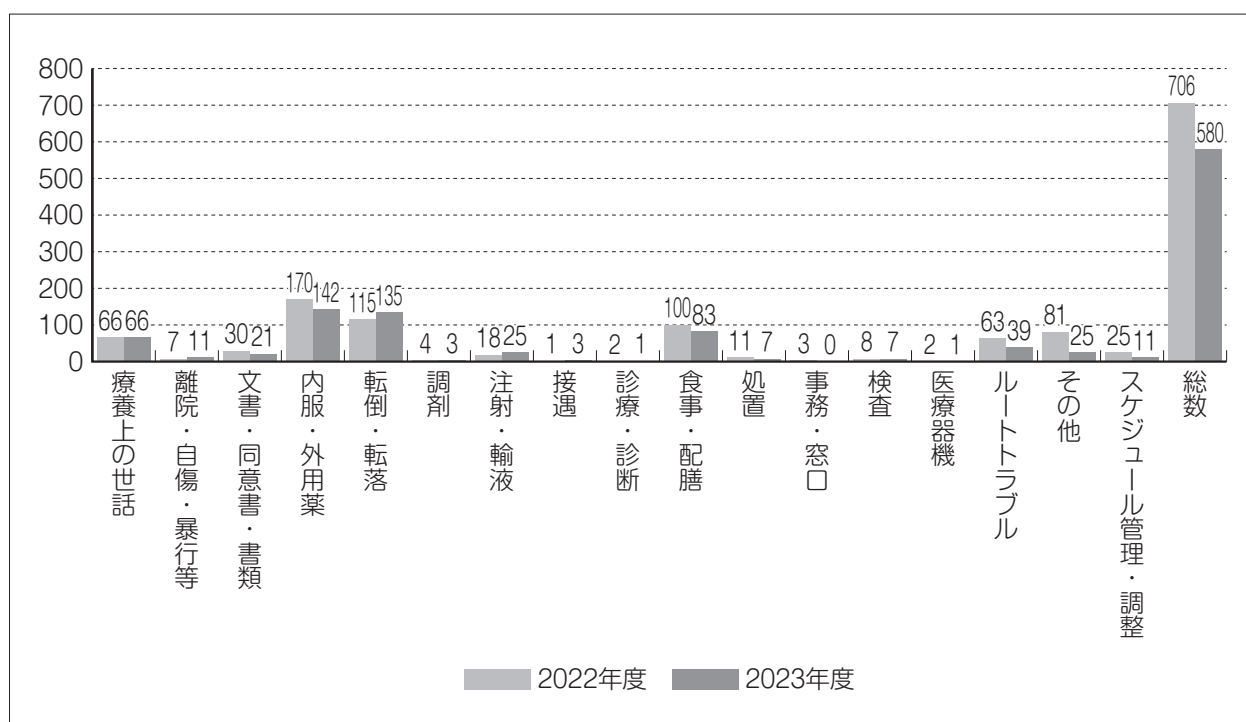
【2023年度 月別報告件数(合計：580件)】



【部署別月件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
診療部	1	3	0	0	2	4	0	3	1	0	0	0	14
看護部	33	35	47	34	48	29	34	29	42	40	27	44	442
セラピスト部	5	10	10	5	5	3	3	5	9	2	5	6	68
薬剤科	0	1	1	1	0	2	0	1	1	2	2	0	11
栄養科	3	5	2	3	1	1	4	1	7	0	5	4	36
検査科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
放射線科	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
地域リハビリテーション	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退院支援室	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
事務部	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4
医療安全管理室	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
総計	42	55	63	43	56	41	41	39	62	44	39	55	580

【事象別報告件数】



2. 医療安全ラウンド

医療安全対策チームと看護部のリスクマネジメント委員でラウンドを実施した。

病棟は14回（3病棟の合計）、栄養科、ADL訓練室、ST訓練室は4回、薬剤科、検査科、機能訓練室、放射線科、通所リハビリテーションは3回、外来、臨床工学科は2回ラウンドを実施し、レポートにてフィードバックした。

3. 医療安全対策マニュアルの作成及び改訂

内服自己管理カンファレンスのテンプレートの改訂、危険行動患者への対応マニュアルに迷惑行為別フローチャート・迷惑行為に対する説明と同意書を新たに作成追加した。

4. 医療安全ニュース

外部から発信されている医療安全情報等を院内で共有できるように医療安全ニュースとして2022年4月から1年間で7回配信した。

5. お知らせ配信

24回配信した。

6. 医療安全研修

研 修 会	開 催 日	テーマ：内容	対 象 者
新採用者 オリエンテーション	4月1日／随時	病院の職員として知ってほしい 安全行動	新採用者
実習生 オリエンテーション	随時	病院における医療安全	看護実習生 セラピスト実習生 薬学部実習生
第1回 医療安全セミナー	7月 DVD視聴 eラーニング	もう1度考えよう安全管理	全職員
第2回 医療安全セミナー	11月 DVD視聴 eラーニング	身体抑制	全職員

7. 医療安全対策地域連携

1-1 連携を組んでいる神奈川県病院との相互評価を計2回実施した

1-2 連携を組んでいる2病院とは各1回ずつ自己評価と訪問ラウンドにて評価を実施した。

2023年度の総括

インシデント件数は全体的に減っており、2022年度と比べ126件減少。その中でレベル1、レベル2、発見・報告の件数が減っていた。レベル3bは3件あり、いずれも転倒で骨折しているが、今年度はレベル4a以上のアクシデントはなかった。事象別では内服薬・外用薬のインシデントが多く、次いで転倒・転落、食事・配膳の順位は毎年変わらない状況で、内服・外用薬では処方箋の確認不足によるインシデントが多い。処方確認のための6Rのポスター作成や与薬方法の動画視聴、アンケートを行い、各自振り返りが出来るよう意識付けしたが、実践出来るまでは至っておらず、引き続き課題となっている。また、転倒・転落では車椅子乗車での転倒が多く、滑りやすい履物や物を取ろうとしての転倒が多いため、入院時に患者さん・ご家族に転倒予防のためのパンフレット作成し、説明を行うようにした。患者さんがチームの一員として医療に参加していくことが医療安全に繋がっていくと考えられ、今後も取り組みを行っていく。

スタッフ体制

医師 1 名、感染管理認定看護師 1 名(専従)

2023年度行動計画

一人ひとりの職員が、感染対策の必要性を理解し、標準予防策をはじめとする必要な感染対策を実践することで、医療関連感染の発生が減少する。

部門内2023年度の活動総括

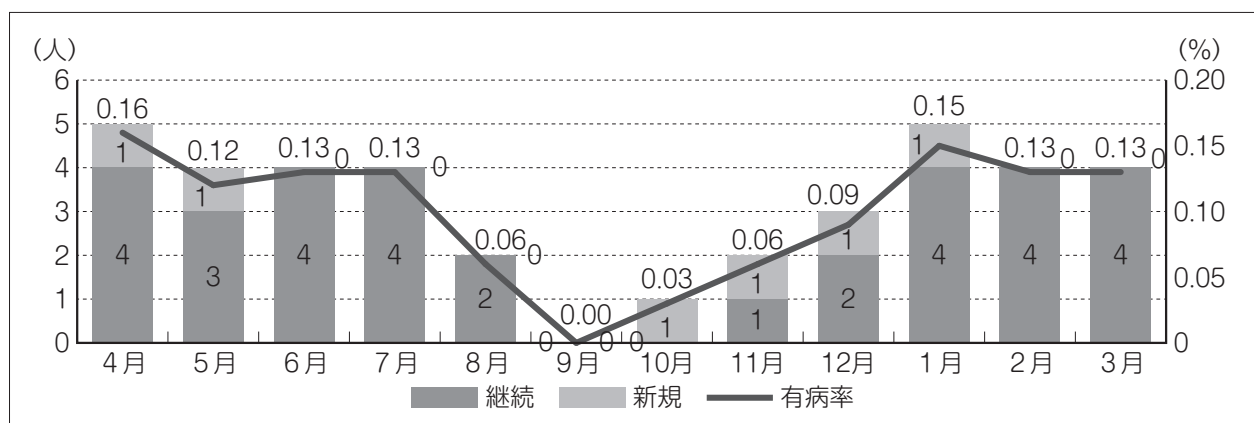
1. サーベイランスの実施と院内感染対策サーベイランス事業へのデータ提出
2. 院内感染予防マニュアルの作成及び改訂
3. 感染防止技術の実施状況の確認と指導
4. 感染症発生時の対応
5. 感染管理教育の実施
6. 職業感染防止
7. ファシリティマネジメントの推進
8. 院内へ感染対策や疫学的な情報の提供
9. 全職員を対象に感染対策の相談対応
10. 院内感染対策委員会や感染対策チームと関係部門との調整

2023年度の実績

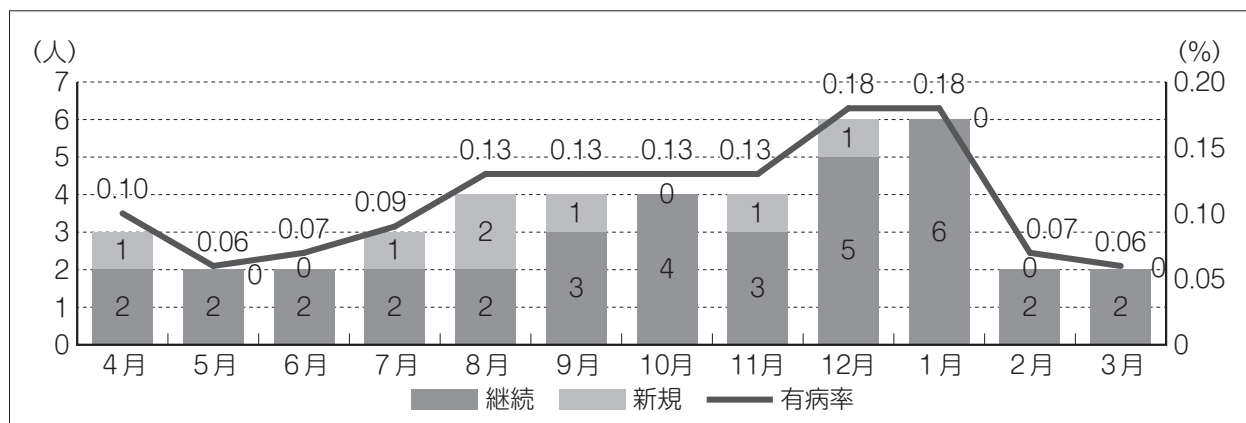
1. サーベイランスの実施と院内感染対策サーベイランス事業へのデータ提出

- 1) 耐性菌サーベイランス

【MRSA有病率】



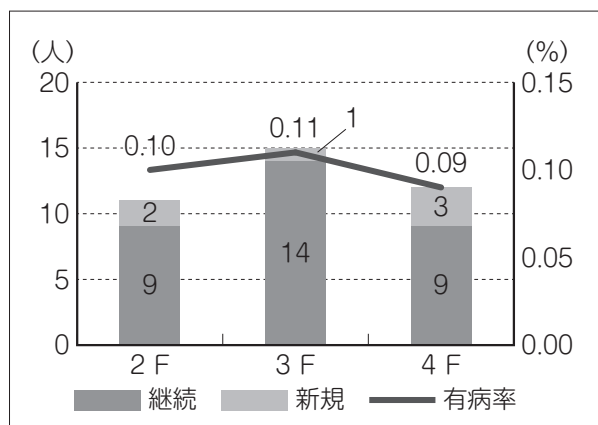
【ESBL産生菌有病率】



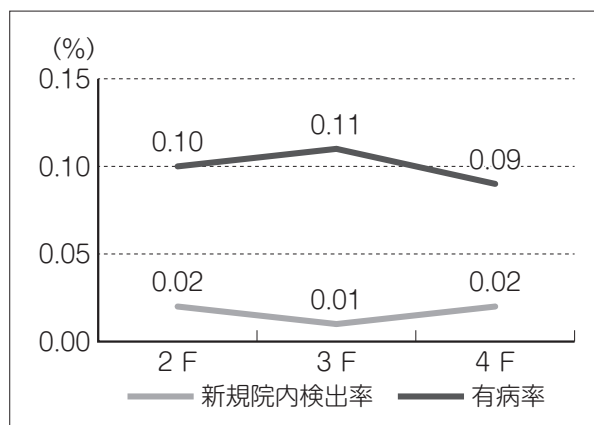
有病率の平均はMRSAで0.10%、ESBLは0.11%であった。

新規検出の多くが前医からの持ち込みであったが、ESBLについて薬剤感受性検査上で院内伝播が強く疑われる事例があった。

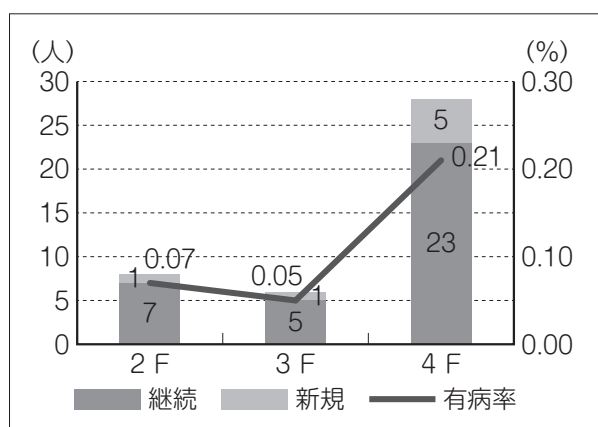
【MRSA有病率 病棟別】



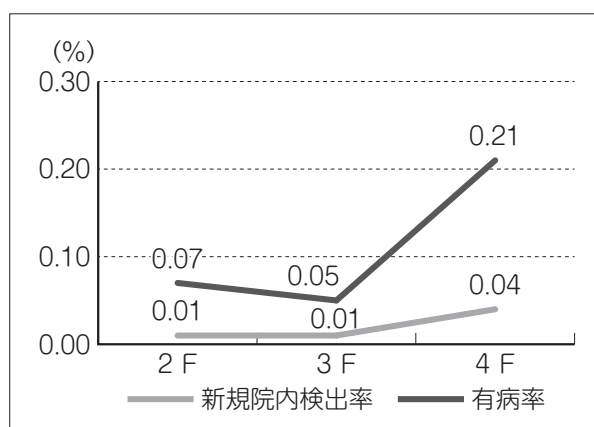
【MRSA】



【ESBL産生菌有病率 病棟別】

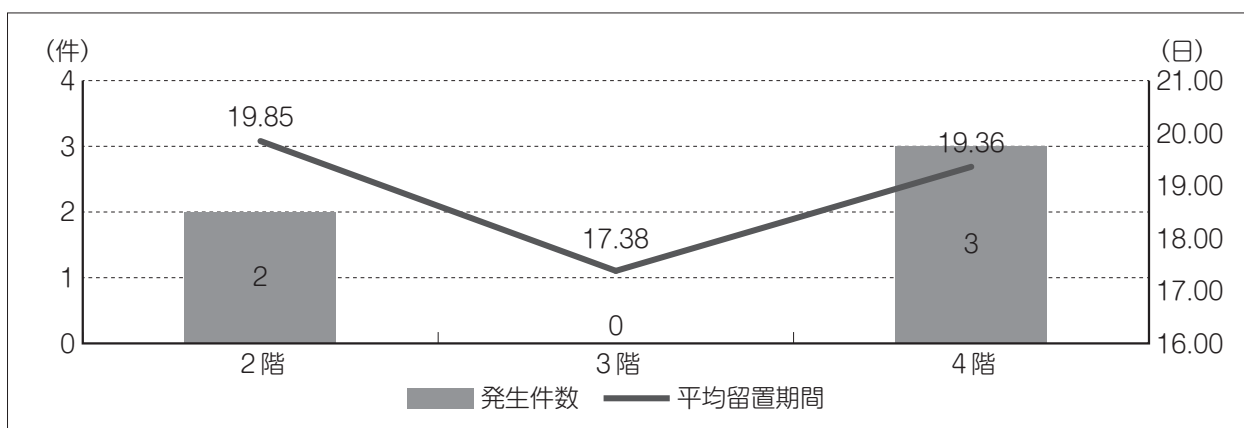


【ESBL産生菌】

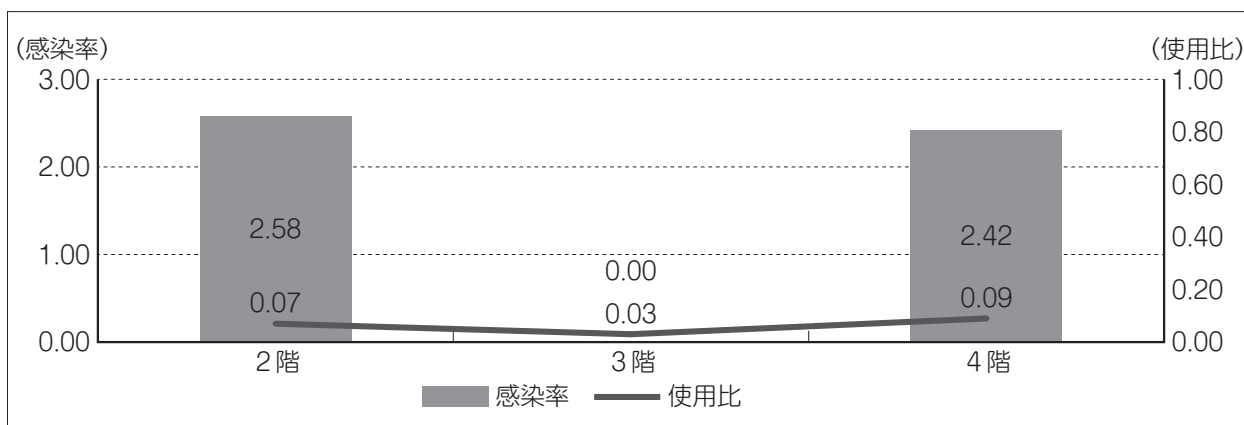


2) 尿道留置カテーテル関連尿路感染サーベイランス

【CA-UTI発生状況】



【CA-UTI発生状況】



* 感染率：CA-UTI発生件数／延べ尿道留置カテーテル使用日数×1000

* 使用比：延べ尿道留置カテーテル使用日数／延べ入院患者数

サーベイランス診断基準に該当した症例は5件で、昨年度より減少した。

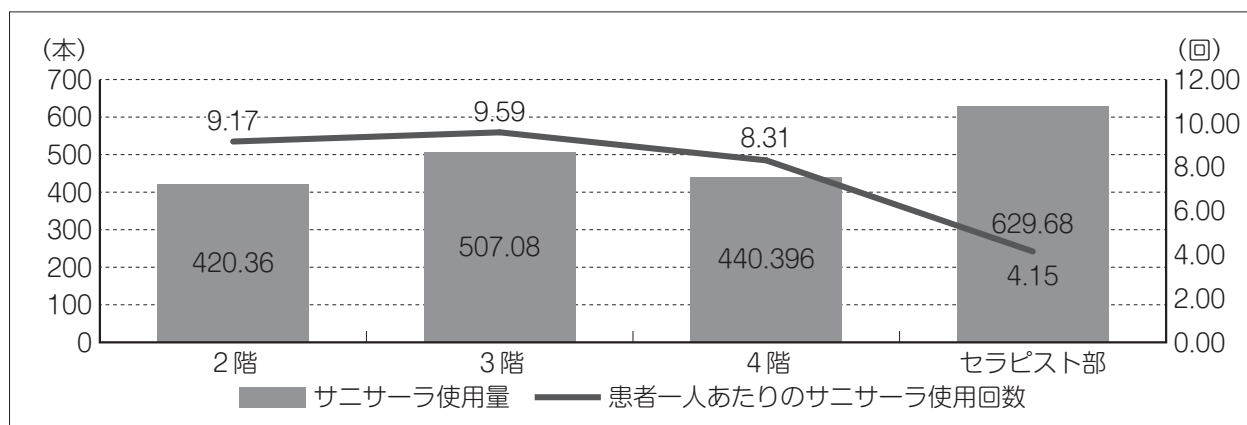
2. 院内感染予防マニュアルの作成及び改訂

月・回	項 目	内 容
7 月	COVID-19対策	5 類感染症移行に伴い大幅改訂
7 月	UTI	3) (1) 部分改訂
7 月	洗浄消毒滅菌	洗浄時の个人防护具、凝固防止スプレーの使用方法改訂
7 月	感染症発生時の対応	細菌名変更 1 例目から調査介入を行う病原体を追加
7 月	その他の病原体別予防策	細菌名変更
10月	UTI	一時的尿閉対応削除、カテーテル抜去後の観察と対応追加
10月	培養検査の採取方法	室温保存する検体を改訂
10月	感染性廃棄物	新型コロナウイルス感染症追加、非感染性ゴミ箱の種類改訂
3 月	ノロウイルス・O-157対策	下膳方法、個室解除の目安改訂
3 回	新型コロナウイルス感染症 患者・職員対応マニュアル	

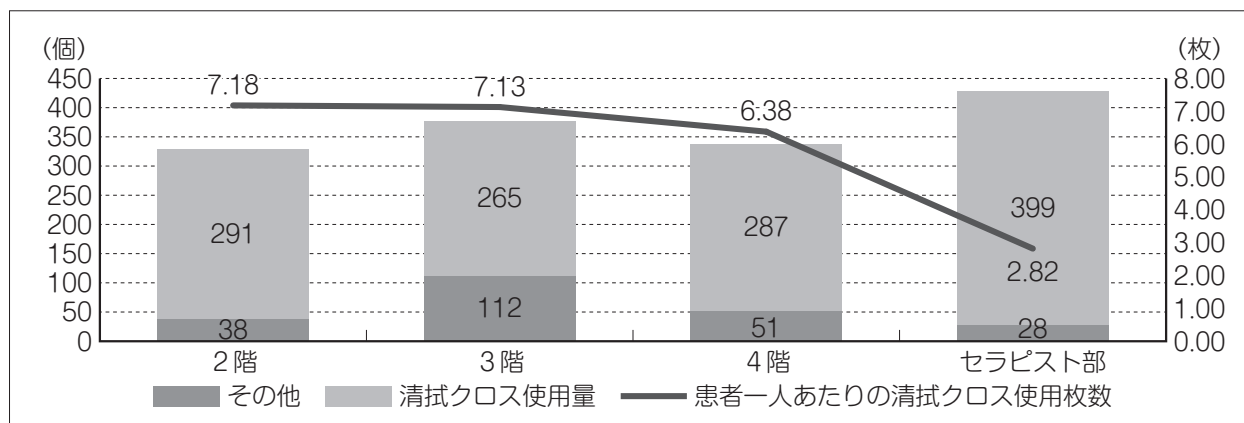
3. 感染防止技術の実施状況の確認と指導

尿道留置カテーテルの管理、耐性菌対策、環境整備、手指衛生や个人防护具着脱などについてラウンドを行い、適宜指導を行った。

【サニサーラ使用状況】



【環境クロス使用状況】



*使用回数：使用量／延べ入院患者数

サニサー使用回数は病棟目標である10回を下回る数値であった。

清拭クロスの使用量は病棟間での大きな差はなかった。

4. 感染症発生時の対応

月	感 染 症	内 容
6 月	COVID-19	全病棟 患者10名、職員9名
3 月	COVID-19	4階病棟 患者7名、職員7名

5. 感染管理教育の実施

研 修 会	開催日	テ ー マ	対象者	参 加 者
新入職員 オリエンテーション	4 月 入職時	標準予防策と 院内ルール	新採用者	全員
第1回 感染対策セミナー	6 月	COVID-19感染対策	全職員	100%
フォローアップ研修	6 月	カテーテル管理	看護部 新卒者	全員
感染対策勉強会	7 月	標準予防策	セラピスト	第2回
感染対策セミナー	11月	ワクチンってなあに？	全職員	100%
実習 オリエンテーション	随時	院内感染対策	実習生	看護師、セラピスト

6. 職業感染防止

ワクチン種類	月	接種人数
新型コロナワクチン接種	5月	100名
インフルエンザワクチン接種	11月	196名
新型コロナワクチン接種	11月	92名

7. ファシリティマネジメントの推進

清掃委託業者の清掃実施評価を行った。

8. 院内へ感染対策や疫学的な情報の提供

院内での感染症発生時、市中の感染症流行状況について、院内感染対策委員会や師長会議等で情報提供を行った。

9. 全職員を対象に感染対策の相談対応

電話、メール等にて相談に対応した。

10. 院内感染対策委員会や院内感染対策チームと関係部門との調整

院内感染対策委員会は臨時開催、14回開催した。

院内感染対策チームでは、週1回ラウンドを行い、結果をフィードバックした。

活動目的

社会的に弱い立場にある人々を誰一人取り残さず、全ての人が地域社会に参加し、共に生きていくという理念で、地域社会とのつながりを促進する。

2023年度活動総括

2023年度はソーシャルインクルージョン活動を本格的に開始した年度となった。

新たに開始した活動としては、マリノス・スポーツクラブと連携した障害者スポーツ支援、ボランティアの受け入れ、花まちさんぽ(オープンガーデン)参画があげられる。

また、病院周辺企業の担当者とソーシャルインクルージョン連携について検討を開始しており、今後もソーシャルインクルージョンの拡充が期待される。

2023年度活動実績

- ボランティア受入(2023年度：4名) 病院周辺花壇の整備・敷地内清掃等
- 花まちさんぽ参画(4月16日～23日) 病院周辺花壇整備(オープンガーデン)
- 障害者スポーツ支援(4月8日・9日) マリノスカップ電動車椅子サッカー大会
- 介護予防支援(8月1日：参加者延15人) フレイル予防体操指導
- 無料健診事業(2月9日：健診者63人) 寿地区生活困窮者の無料健診
- 院内観賞用ボード設置(2月28日) ケアプラザと連携し観賞用展示物設置
- ケアマネージャーと語る会(3月13日：参加者38人) 神奈川県病院と共催
- 脳卒中教室(2023年度：延373人) 病棟にてDVD視聴
- 移動支援(2023年度：延113人) 家屋評価・他院受診等
- 洗濯支援(2023年度：延1,130人) 生活困窮者の洗濯代免除
- リハ専門職派遣(2023年度：参加者延113人) 地域住民自主活動への講師派遣
- 買物支援(2023年度：延37人) 坂が多い地域住民の買物搬送支援

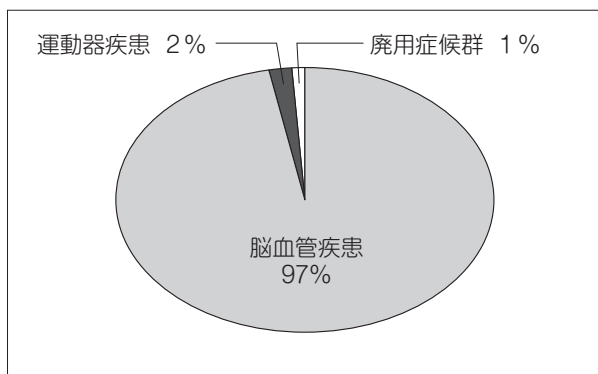
第Ⅳ章

医療統計

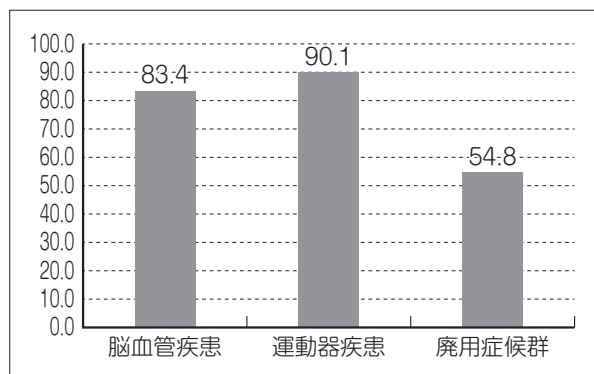


患者統計

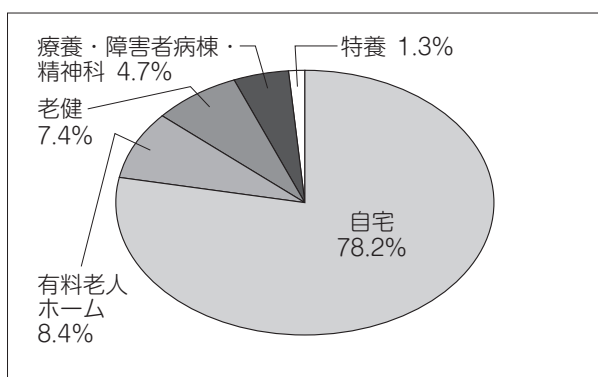
1. 疾患別患者内訳



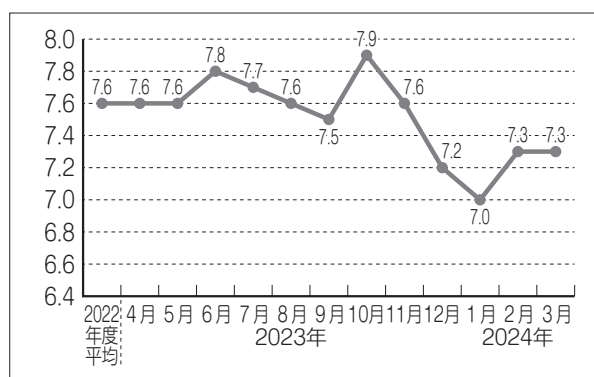
2. 疾患別平均入院日数



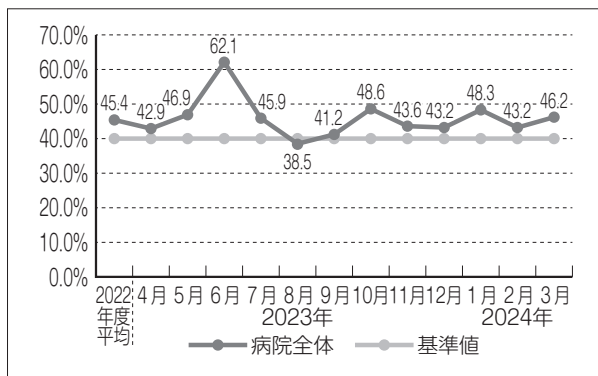
3. 転帰先内訳



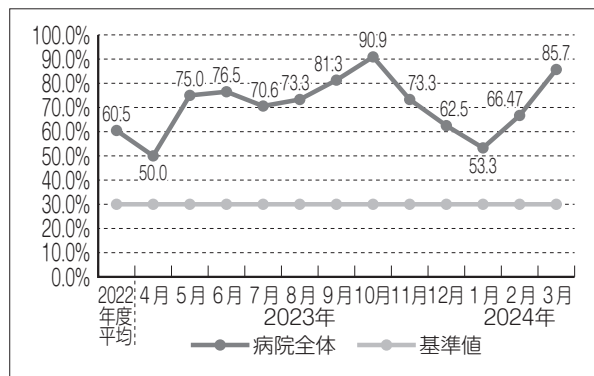
4. 入院1日平均リハビリ単位数



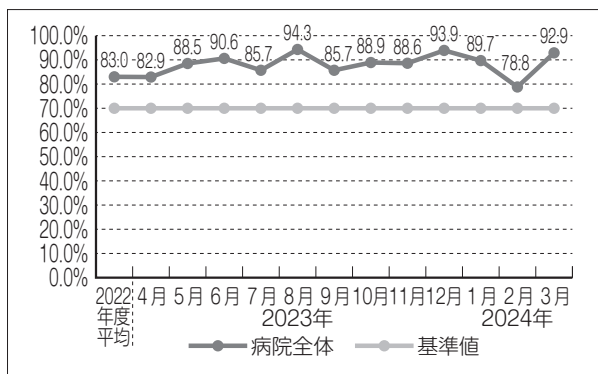
5. 重症患者入院割合



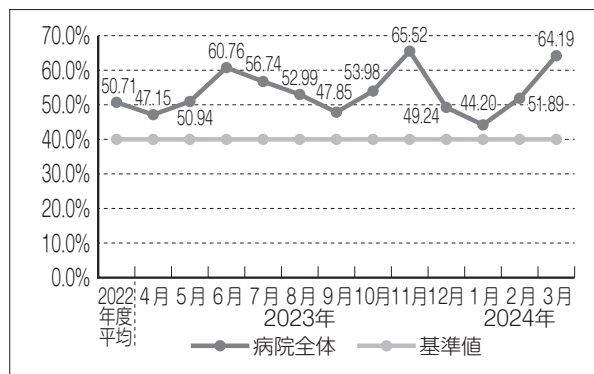
6. 重症患者改善割合



7. 在宅復帰率



8. 実績指数



入院患者（紹介元病院、居住地）

◎2023年度 入院患者年齢別内訳

N=549

	人 数	割 合
10代	4	0.7%
20代	9	1.6%
30代	11	2.0%
40代	57	10.4%
50代	116	21.1%
60代	114	20.8%
70代	138	25.1%
80代	84	15.3%
90代	16	2.9%
100代	0	0.0%

◎2023年度 入院患者居住地別一覧

N=549

	件 数
神奈川県横浜市神奈川区	140
神奈川県横浜市港北区	88
神奈川県横浜市鶴見区	58
神奈川県川崎市中原区	40
神奈川県横浜市保土ヶ谷区	33
神奈川県横浜市西区	29
神奈川県横浜市中区	22
神奈川県川崎市幸区	19
神奈川県川崎市高津区	15
神奈川県川崎市川崎区	14
その他	91

◎2023年度 入院患者紹介元一覧

N=549

	件 数
脳神経外科東横浜病院	99
東部病院	90
横浜市立市民病院	58
関東労災病院	55
横浜労災病院	49
菊名記念病院	30
聖マリアンナ医科大学東横病院	28
川崎市立川崎病院	17
横浜中央病院	15
神奈川県病院	14
その他	94

第Ⅴ章

研究実績



研究実績

◎2023年度 学会・研修会・勉強会・講演会発表実績

演 題 名	発表会名称	開催日	開催地	発表者	職種名	共同研究者
地域連携 渉外担当の役割 ～みなとまち 横浜の連携について～	済生会学会	2024年 1月28日(日)	神奈川県	今川 康正	事務 (渉外担当)	
更なる病院機能の向上のための病院機能評価受審	済生会学会	2024年 1月28日(日)	神奈川県	内海 俊太	事務	
地域連携 渉外担当の役割 ー摂食嚥下外来の取組ー	日本医療マネジメント学会 第23回 神奈川県支部学術集会	2024年 3月10日(日)	神奈川県	今川 康正	事務 (渉外担当)	
頸部振動刺激が左半側空間無視患者の空間認知と座位バランスへ与える影響	第60回 日本リハビリテーション医学会学術集会	2023年 6月30日(金)	福岡県	岩川 一茂	P T	
E ffects of nesk muscle vibration on subjective straight ahead and sittting balance in strokes with and without unilateral spatial neglect	2023 Internatinal Neuropsychological Society	2023年 7月8日(土)	台 湾	岩川 一茂	P T	
E ffects of a visual search task in a virtual realityspace with a moving background on spacial cognition and standing balance in left hemiparetic strokes - A double blinded controlled trial -	第21回 日本神経理学療法学会学術大会	2023年 9月9日(土)	神奈川県	岩川 一茂	P T	
回復期脳卒中患者における身体機能分類と体幹機能改善の特徴 ー階層クラスター分析による検討ー	第21回 日本神経理学療法学会学術大会	2023年 9月9日(土)	神奈川県	中村 学	P T	
底屈制動機構付き長下肢装具の設定の違いが歩行に与える影響	第21回 日本神経理学療法学会学術大会	2023年 9月9日(土)	神奈川県	飛田 朗	P T	
夜間の歩行自立に向けた前庭リハビリテーションとその効果判定 ～非骨傷性赤髄損傷患者 1 例での報告～	第21回 日本神経理学療法学会学術大会	2023年 9月9日(土)	神奈川県	岡田 紘佑	P T	
背景が偏位するVrtual Realityを用いた介入が、左半側空間無視患者の空間認知に与える影響	第21回 日本神経理学療法学会学術大会	2023年 9月9日(土)	神奈川県	小松 紘佳	P T	
簡易宿泊所への退院に不安を抱える脳血管障害患者への実践報告	第19回 神奈川県作業療法学会	2023年 10月14日(土)	神奈川県	井上 那築	O T	
回復期リハビリテーション病院で復学支援を行った若年脳卒中患者の事例	第19回 神奈川県作業療法学会	2023年 10月14日(土)	神奈川県	新藤 志織	O T	
半側空間無視症例に背景が偏倚するVirtual Realityが与える影響	第47回 日本高次脳機能障害学会学術集会	2023年 10月29日(日)	宮城県	岩川 一茂	P T	
POST COVID-19 ISSUES IN JAPAN	アジア作業療法協会交流会	2023年 11月9日(木)	沖縄県	田原 正俊	O T	
脳卒中患者の家族が目標設定に参加するための効果的な支援に関する予備的調査	第57回 日本作業療法学会	2023年 11月10日(金)	沖縄県	田原 正俊	O T	

演 題 名	発表会名称	開催日	開催地	発表者	職種名	共同研究者
脳卒中後の重度運動麻痺に対する、自主練習における電気刺激療法の影響	第57回 日本作業療法学会	2023年 11月10日(金)	沖縄県	武田 大勢	OT	
脳卒中を発症した妊産婦の2事例に対する作業療法介入経過とその中から見えた課題と展望	第57回 日本作業療法学会	2023年 11月10日(金)	沖縄県	新藤 志織	OT	
依存的で退院後の生活イメージが持てずにいた産褥期脳卒中後の重度左片麻痺事例の報告	第57回 日本作業療法学会	2023年 11月10日(金)	沖縄県	古田 真咲	OT	
当院の理学療法士派遣事業における健康教室での取り組みと介入効果に関する考察	第10回 日本地域理学療法学会学術大会	2023年 12月16日(土)	東京都	今村 朋博	PT	
電子制御式膝継手付きの長下肢装具を用いた歩行が床反力に与える影響	日本支援工学療法学会 第12回 学術大会	2023年 12月16日(土)	オンライン	有馬 加偉	PT	
直流前庭電気刺激が健常者の立ち走り運動時の脳活動に及ぼす影響～fNIRS研究～	日本物理療法学会 合同学術大会 2024	2024年 1月26日(金)	奈良県	堀川 朱莉	PT	
上肢運動麻痺に対する手指機能訓練支援ロボットの自主訓練の導入と運用方法を工夫した症例	第76回 済生会学会	2024年 1月28日(日)	熊本県	田原 正俊	OT	
Google Formを活用した管理ツールの導入により麻痺手の使用頻度が向上した症例	第76回 済生会学会	2024年 1月28日(日)	熊本県	御子柴佑香	OT	
理学療法部門における新生涯学習制度に関する取り組みについて	第76回 済生会学会	2024年 1月28日(日)	熊本県	今村 朋博	PT	
Mental health issues among healthcare workers and university students during and after the COVID-19 pandemic	International Exchange Symposium with Chang Gung University in Taiwan	2024年 2月23日(金)	台湾	田原 正俊	OT	
表面筋電図を活用して下肢装具の使用方法的最適化を図ることで歩行能力が向上した自脳卒中重度片麻痺症例	第40回 神奈川県理学療法学会	2024年 2月4日(日)	オンライン	林 翔太	PT	
電子制御式膝継手付きの長下肢装具が脳卒中患者の歩行時の筋活動に与える影響	第40回 神奈川県理学療法学会	2024年 2月4日(日)	オンライン	有馬 加偉	PT	
脳卒中患者の装具作製に寄与する因子4の探索ー継続的評価結果からみる後向きコホート研究ー	第43回 回復期リハビリテーション研究大会	2024年 3月8日(金)	熊本県	野崎 尚也	PT	
100歳を超え重複障害を呈したが、受傷以前と同様の移動能力を獲得できたことにより自宅復帰が可能となった症例	第43回 回復期リハビリテーション研究大会	2024年 3月8日(金)	熊本県	宮澤 忠宏	PT	
多職種連携による退院支援によって在宅生活が可能となった脳卒中重介助症例について	第43回 回復期リハビリテーション研究大会	2024年 3月8日(金)	熊本県	飛田 朗	PT	
COVID-19が5類感染症指定後の医療従事者が感じる社会状況との乖離について	第9回 日本臨床作業療法学会学術大会	2024年 3月9日(土)	東京都	田原 正俊	OT	
退院後の生活に不安を抱く失語症事例の家族にコミュニケーション自己効力感尺度(CSE)と作業選択意思決定支援ソフト(ADOC)を段階的に用いて家族の想いを引き出した実践報告	第9回 日本臨床作業療法学会学術大会	2024年 3月9日(土)	東京都	長田 典	OT	

演 題 名	発表会名称	開催日	開催地	発表者	職種名	共同研究者
家族参加型のリハビリテーションが覚醒・自発性・意欲に影響を及ぼしADLの自立度向上に至った事例	第9回 日本臨床作業療法学会学術大会	2024年 3月9日(土)	東京都	佐藤 光	OT	
重度ギランバレー症候群の事例に対して免荷型上肢機能訓練ロボットを用いた実践報告 神経筋疾患事例へのロボット訓練の適応に関する一考察	第9回 日本臨床作業療法学会学術大会	2024年 3月9日(土)	東京都	小池 真愛	OT	
重度半側空間無視に対するプリズム適応療法により日常生活活動の質的向上と余暇活動の再獲得につながった事例	第9回 日本臨床作業療法学会学術大会	2024年 3月9日(土)	東京都	伊藤 拓人	OT	
多様な視点のリーズニングにより大切とする「人との関わり」「家庭内役割」の再獲得に繋がった事例	第10回 日本臨床作業療法学会学術大会	2024年 3月10日(日)	東京都	土田 卓巳	OT	
Google Formsを使用した麻痺側上肢のセルフモニタリングの試み	第19回 神奈川県作業療法学会	2024年 10月14日(月)	神奈川県	田原 正俊	OT	
回復期に勤務する看護師へのキャリア支援の検討	日本看護科学学会 第42回 学術集会	2023年 12月9日(土)	広島県	藤原佐和子	看護師	
慢性期脳卒中片麻痺患者におけるロボットを用いた前腕回内回外訓練の効果及び適応について	第60回 日本リハビリテーション医学会学術集会	2023年 6月29日(木)	福岡県	河口 大洋	医師	
筋萎縮性側索硬化症患者に対し肺容量リクルーメントトレーニングが呼吸機能へ与える効果	第7回 日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	2023年 11月5日(日)	宮崎県	河口 大洋	医師	
Relationship between Lung Volume Recruitment and Survival in patients with Amyotrophic Lateral Sclerosis	PACT ALS 2023	(Thu) 14th. sep. 2023	Kuala Lumpur	Kawaguchi T.	医師	
新型コロナウイルス感染症対策を機にICT活用が進んだ事例 ～院内研修と脳卒中教室～	リハビリテーション医療デジタルトランスフォーメーション研究会 第1回 学術集会	2023年 4月22・23日	沖縄県	新城 吾朗	医師	

◎2023年度 誌上発表等実績

題 名	雑誌／書籍／広報誌 名称、巻(号)、出版社	著 者 名	職種名
麻痺側肩関節の疼痛を有していた慢性期の脳卒中事例に対してWebアンケートフォームを用いた自主訓練の管理を試みた実践報告	日本臨床作業療法研究 10(1)42-48、2023	田原 正俊・神藤 星那	O T
Identifying profiles of stroke patients benefitting from additional training : a latent class analysis approach	J Rehabil Med. 21 ; 56, 2024	武田 大勢・内田 順也	O T
作業的挑戦と精神的健康状態の評価を通じて介入を修正し多職種で復職を支援した高校教師の事例	日本臨床作業療法研究 10(1)13-19、2023	小池 真愛・田原 正俊	O T
Effects of a virtual reality intervention with a biased background on standing balance in stroke -A pilot single-blinded randomized crossover trial-	日本保健科学学会誌 26巻4号	岩川 一茂	P T
左視床出血後の余剰幻肢に対し映像による一人称的運動観察治療を併用した1症例	総合リハビリテーション、 51(6)、医学書院	中村 学	P T

2023年度(令和5年度)
東神奈川リハビリテーション病院 年報

発行 〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川1丁目13番地10
社会福祉法人 鶴岡済生会支部神奈川県済生会
東神奈川リハビリテーション病院
電話 (045)324-3600 FAX (045)324-3555
URL <https://higashikanagawa.saiseikai.or.jp>
発行責任者 院長 江端 広樹
編集 広報室
編集責任者 三浦 治己
発行日 2024年12月



社会福祉法人 SAISEIKAI HIGASHIKANAGAWA REHABILITATION HOSPITAL

恩賜
財団 済生会東神奈川リハビリテーション病院